北支

昭和十四年七月六日第三種郵便物認可　昭和十八年三月十五日印刷納本
昭和十八年四月一日發行（毎月一回一日發行）第四十七號

4

決戰下・華北交通の使命

華北蒙疆資源要圖

敵米英を撃滅すべき決戰資源、石炭、鐵、棉花、鹽、礬土は、いま華北蒙疆から日本にどんどん送りだされてゐる。量も、質も共榮圏内の代表的なものだ

日本の一倍半もある廣い華北蒙疆の、各地にちらばつて出るこれら資源の對日輸送は、華北交通の血のにじむ努力によつて、いさゝかのとどこほりもみせてゐない

六千キロの鐵道、一萬五千キロの自動車道路、四千キロの内河水運路は、そのまゝ日本本土につゞいてゐるのである

人も、物も、擧げて大東亞戰爭に戰ひぬいてゐる華北蒙疆の一部にまだ數十萬の敗殘蔣軍、中共軍がゐる。やぶれかぶれの彼らのゲリラ戰術は、皇軍不斷の大小作戰に日ごと潰えさりつゝある。華北交通の愛路村、八千ケ村、三千萬村民はこの治安確保戰に默々と協力身を挺してゐるのだ

蔣が負惜しみにいふ「點」と「線」は、愛路村を基地として、果てしなき「面」にひろがりつゝある

華北交通が人材と資材をかたむけて農村の指導につくす努力も、年ごとに大きな實をむすんでゐる。愛に根ざした土の科學が、華北の棉花を東亞民族十億の衣料とし、農畜産物を食料とする日まで、營營とつゞけられてゆくのだ

華北蒙疆九千萬住民のうち八割强は農民である。このつゝましい農民は、日本のほんたうの友なのである。日本の眞意は愛路工作を通じて彼らがいちばんよく知つてゐるのだ

明日の華北蒙疆を負つて立つ青少年の訓育と錬成も大きな仕事である。華北交通のひたむきな熱情がこゝでも花をさかせてゐるのだ。

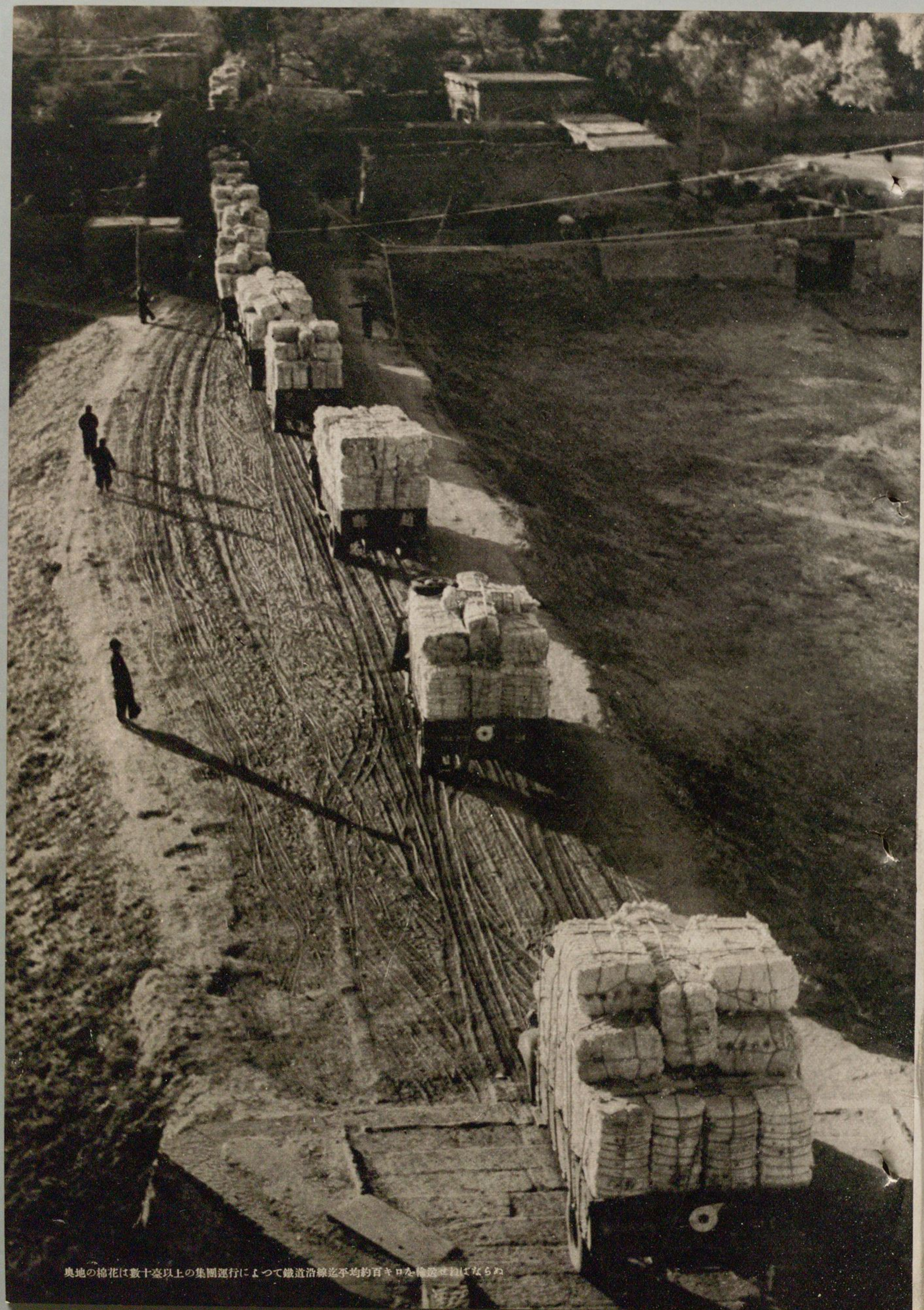
交通路を匪賊の手から守つて壯烈な殉職をとげた一愛路少年隊員が最後に聲をふりしぼつて、天皇陛下萬歳と唱へたことは、八紘爲宇の大御稜威が華北の片田舍にまでかゞやいた長き例である。華北蒙疆を眞に共榮圏確立の先驅たらしめ、中核たらしめる逞ましい推進力、華北交通決戰下の使命は重く且つ大きい。日華十五萬社員の日日は錬成と實践の一語につきる

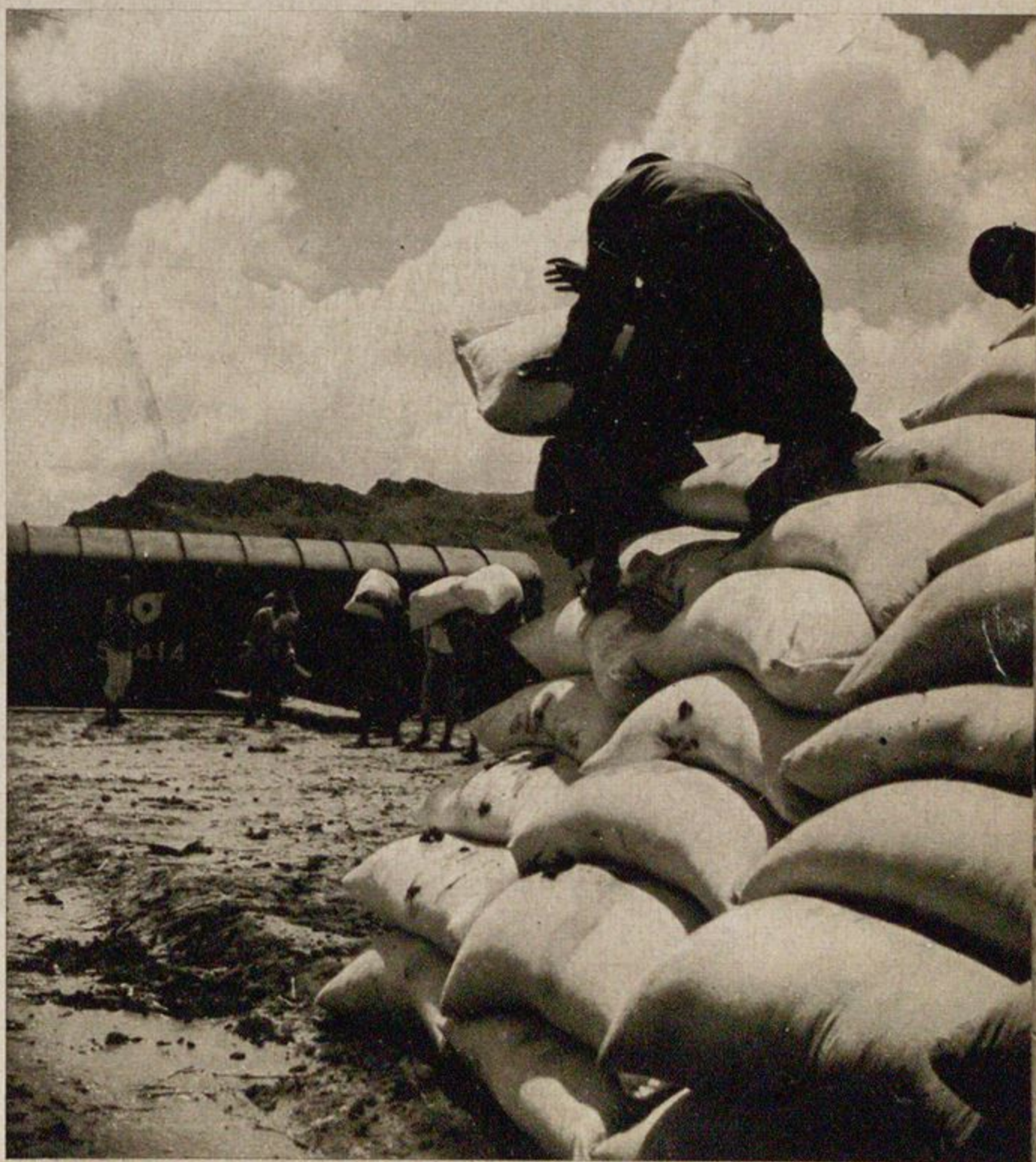
黄土層を行く列車

決戰下・華北交通の使命
對日資源の輸送 1

決戰下の對日資源輸送は、ひとときもひとかけらもゆるがせにできない今日、華北蒙疆の割當量完送のかげに增送につぐ增送、その輸送にあたる華北交通の苦心は、ことばにつくしがたいものがある

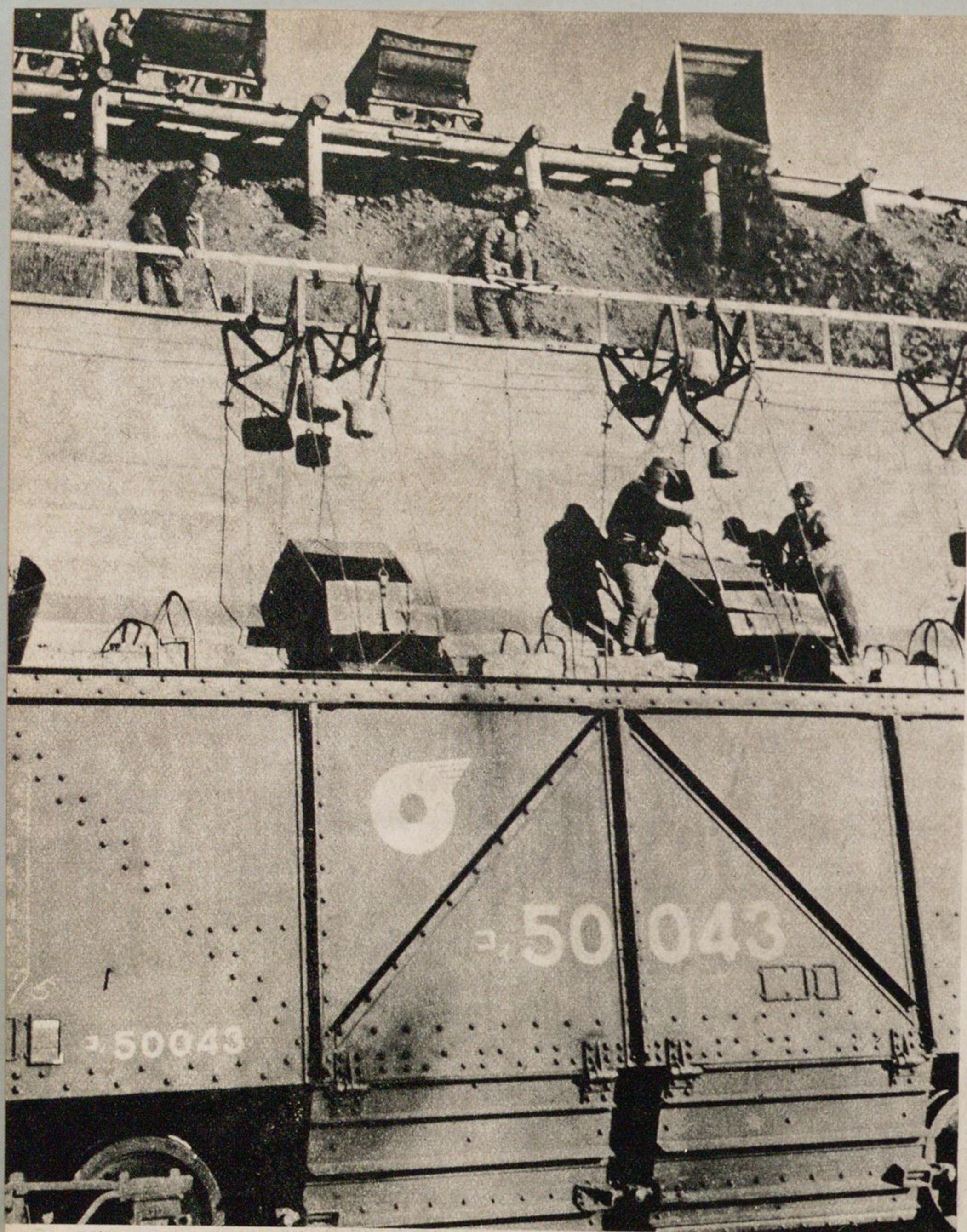
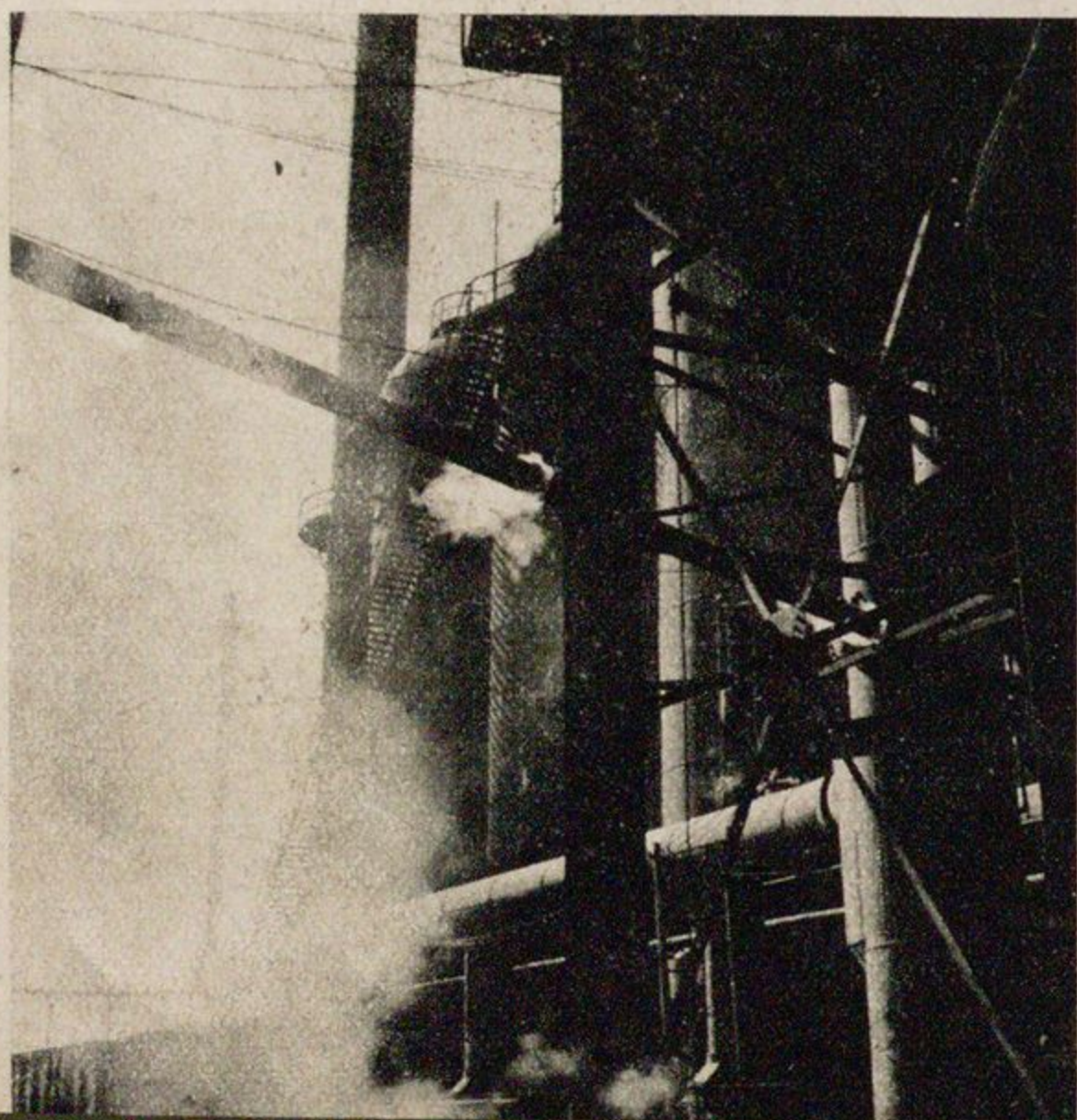
華北蒙疆の炭礦はいづれも海港に遠いところにある。もつとも近い中興炭礦でさへ連雲港まで二三二キロ、大同炭礦は塘沽港まで五四七キロもある鐵もまた同じで、龍烟鐵鑛から塘沽港まで三四六キロある。これらの遠距離に加へて、送りださねばならない量も非常に多いのである。しかも、車輛と施設と人員は限られてゐる。これを克服する輸送非常體制もなまやさしいものではおつつかない。車輛運用の合理化、從事員勤務時間の延長などはもちろん、今まで例を見ない貨車の增積といふ劃期的な方法がとられてゐる。これは三〇トン貨車に三五トンの石炭を積むといふ手段で、約二割の增送を行つてゐるのである

日本が最も要求する石炭は北支の製鐵用粘結炭である——大同

奥地の棉花は數十臺以上の集團運行によつて鐵道沿線迄平均約百キロを輸送せねばならぬ

長蘆鹽の野積——日本のアルカリ工業の原料鹽は百パーセント北支の鹽にまつ

棉花も多くは鐵道をはなれた奥地に産する。これを自動車で運ぶのであるが、平均一〇〇キロといはれてゐる。こゝにも大型トラック或は六トン乃至八トン積トレラーによる縦列運行が行はれ、迅速、大量輸送がはかられてゐる。自動車からさらに鐵道に積みかへられて輸送されねばならないことはもちろんである。なほ自動車さへ通じない奥地には内河水運の民船が輸送にあたるが、これまた蜿蜒數キロに及ぶ民船の集團航行によつて運ばれてゐる。鹽は海港近くで産するが、對日輸送はもちろん、住民の必需品としての現地内輸送も重要なものとなつてゐる

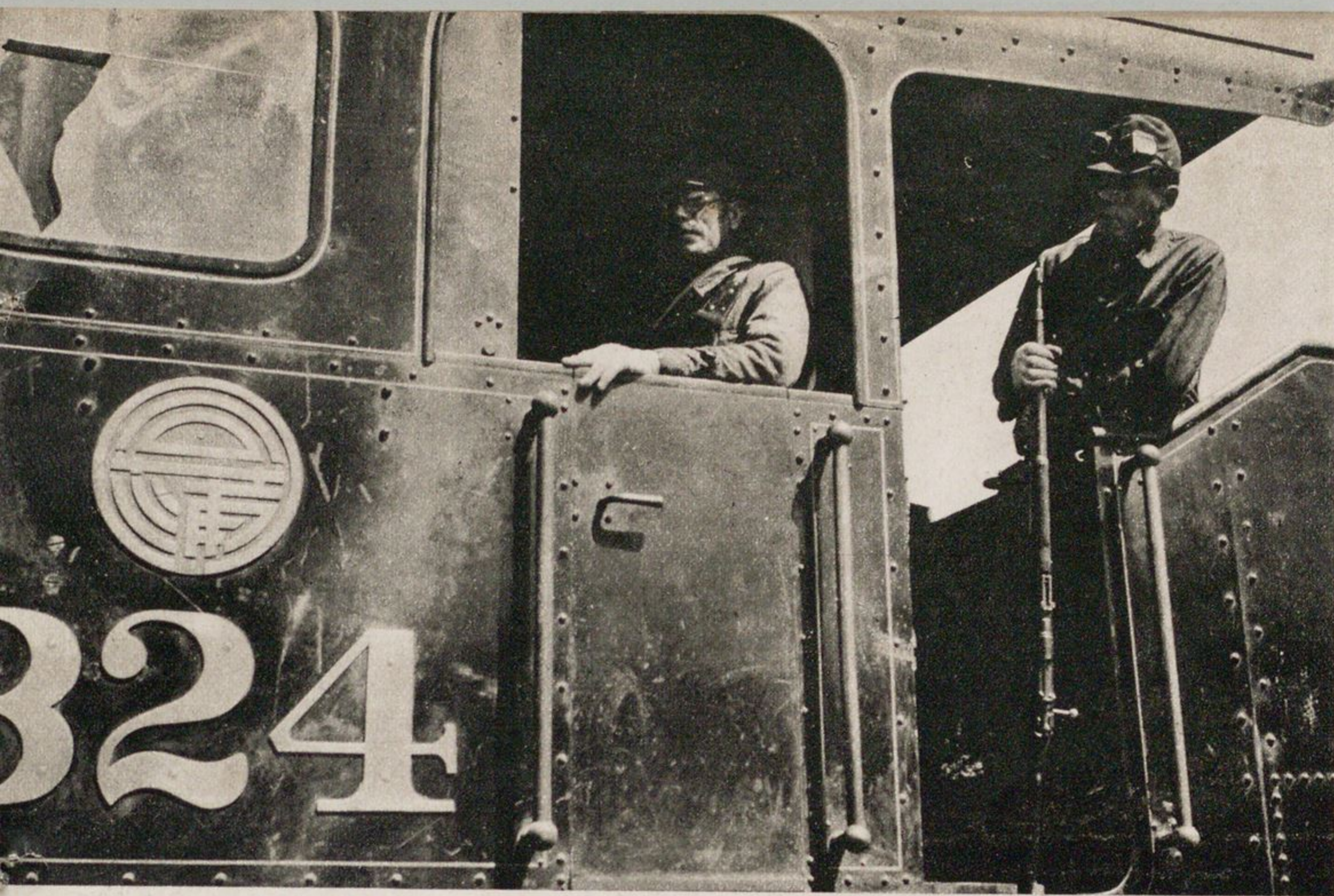
これら資源の輸送については、船腹難緩和のためいよ〳〵陸路輸送が重視される傾向にあ

決戰下・華北交通の使命

對日資源の輸送 2

鐵鑛は平均六十パーセントの富鑛で對日輸送量に於ては滿洲を凌駕してゐる——龍烟

るのである

以上のやうに對日輸送に全力が擧げられつゝある反面、資源地の開發にも大きな努力が拂はれてゐる。石炭について見れば、從來、華北の主要炭礦は鐵道から一〇キロもしくは二〇キロの地點にありながら、山元への運炭引込線がなかつた。これが今日ではほとんどすべての主要炭礦に運炭線が整備され、石炭は思ふ存分掘られ、送られてゐるのである

これらの非常對策は年々大きな成果を擧げてゐるが、鐵道貨物の總輸送量を見ても、事變前を一〇〇とした場合、昭和十三年度八八、十四年度一三二、十五年度一五六、十六年度一七〇、十七年度一八六と飛躍的に增加しつゝあるのである

武裝して勤務する機關車乘務員

日々の職場は治安確保の戰場である

敵のゲリラ戰術は今なほ跡をたたない。治安の確保に血のにじむ苦心のある事を忘れてはならぬ

決戰下・華北交通の使命

治安の確保 1

どこの國でも戰後の治安如何は極めておほきな問題である。とくに中國は、かつて、徹底した抗日をふきこまれた土地と民衆だけに一層むづかしい治安の確保、民心の獲得、皇威の宣布は脈を通じたもつともだいじな建設戰である

兵營を建てることと鐵道を敷くことは治安を保つうへに一番いゝ方法といはれる。交通は貨客の運送線であるとともに國力の伸張線である。すなはち、八紘爲宇の大精神をおしひろめる據點なのである。だから、治安は、まづ、交通線の確保からはじめられる。そして、やがて點と線は面におよぶ

華北交通は、その運營する鐵道、自動車、水運の各路線に警務員を配置してこれを護るとともに、一方、愛路村工作をおこなつて民衆獲得に挺身してゐるのであつて、中國政府の華北綏靖軍中華民國新民會とともに、皇軍を主軸とする治安戰の一翼をなしてゐる。このため同社は年數千萬圓の巨費を投じてゐる

中國女性もかく協力する

決戰下・華北交通の使命

治安の確保 2

華北交通の警務員は軍隊出身のつはものぞろひで、常時、軍事教練をやつて有事に備へてゐる。そして、華人警務員にたいし、びしびし嚴格な訓練をほどこしてゐる。北京、天津など大都市の驛には、女のお巡りさんが婦人旅客の荷物の檢査などやつてゐる。女ながらも敢闘する中國人の女警である。また警備犬や傳書鳩の活躍もめざましい

歸順八路軍も華北交通警務員として再訓練され前線に立つ

中國少年も鐵道警備、情報連絡に活躍してゐる——愛路少年隊

愛路村は、鐵道、自動車、水運の各路線を中心として、兩側におのおの十キロづつ、合計二十キロの地域のなかにある村のことをいふ。いま、村の數は八千、村民は三千萬にたつしてゐる。華北交通では、物心兩方面から、これら村民に溫い恩惠の手をさしのべてゐる。この「民路」の結びつきから、當然村民の交通機關への協力が生れる。匪襲の情報をもたらし、列車爆破を未然にふせぎ、事故の復舊にはせ參ずるなどその逞しい健鬪談は數かぎりない

決戰下・華北交通の使命

農村の振興 1

參戰下の華北蒙疆が負ふもつとも大きい使命は、資源の增送と食糧の增產である。支那事變勃發後、いち早く著手された開發計畫によつて、資源の生產はおほいに躍進を示したが、食糧增產はこれに伴はなかつた憾があつた。これは從來、華北蒙疆が小麥粉などの主要食糧を濠洲、カナダ等に依存してゐた事實が比較的閑却されてゐた結果と

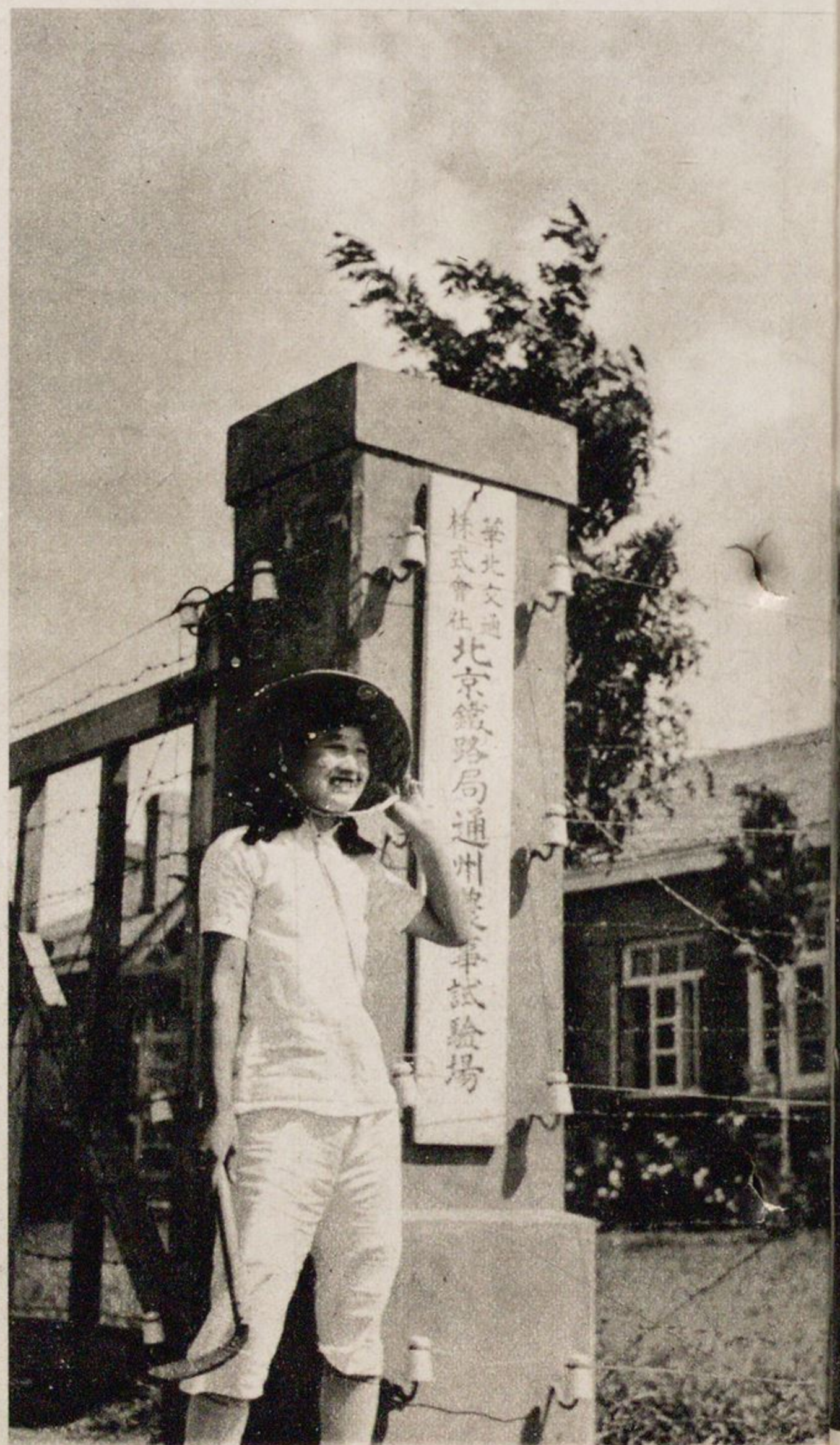
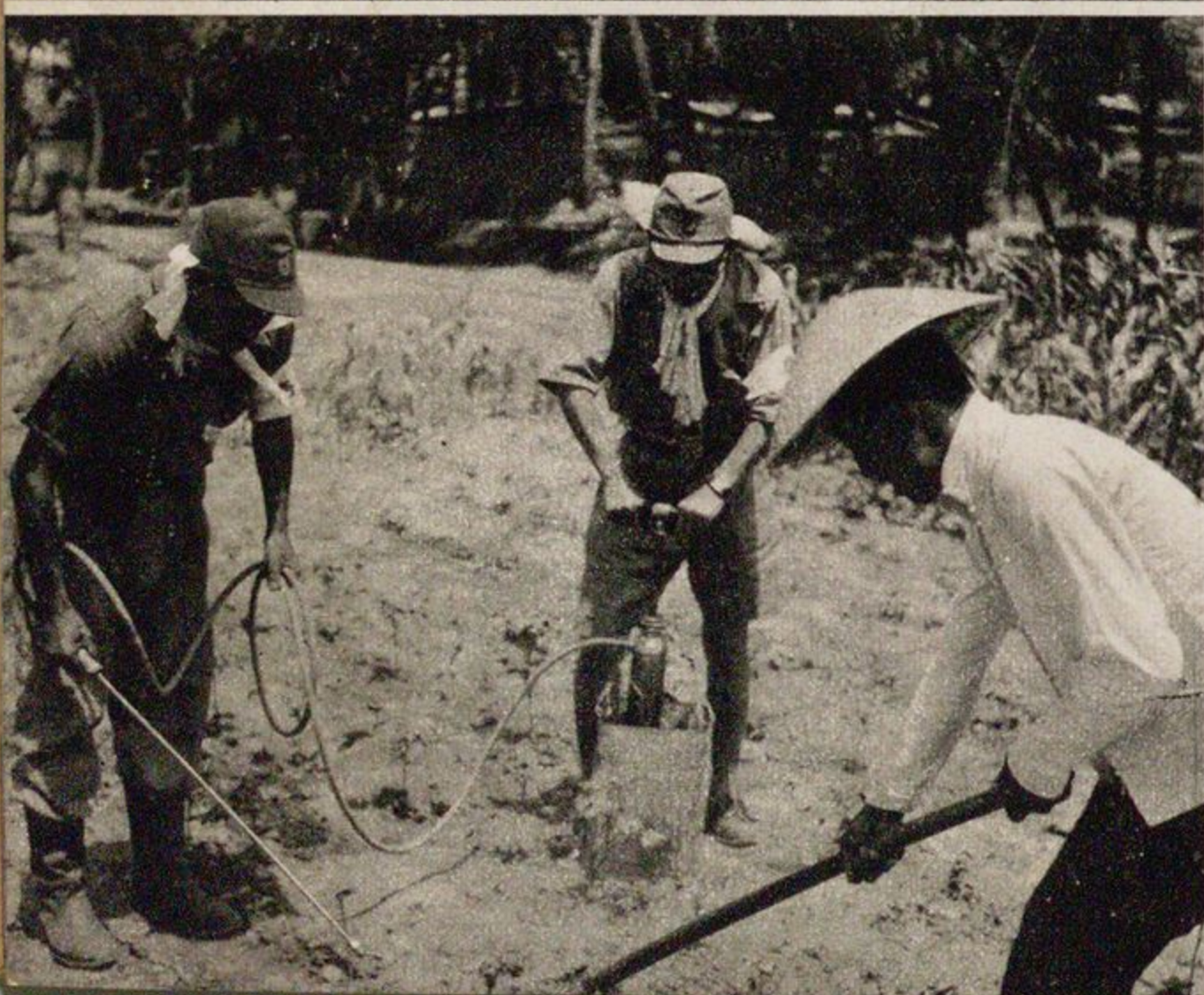
↑華北交通の病蟲試驗室

↓適切な農地改善の指導

みられてゐる。この傾向は、大東亞戰爭勃發と同時に實施された食糧緊急增產對策によつて、急角度に轉換されつつある。昭和十七年度の對策は、二十萬眼の鑿井にその重點が置かれた。これはだいたい九割以上の完成が豫想されてゐる。そのほか、肥料の配給、種子の消毒、水田の造成など、おほむね好成績を收めたといはれる。十八年度においては食糧と棉花の競合問題がとり上げられ、その綜合對策が實施されることになつた。食糧と棉花の調整は食糧の增產も急務であり、また共榮圈內最大の棉作適地として、棉花の增產も行はねばならないといふ點で、むつかしい事である

家畜の防疫

優良家禽は農民に貸付けられる

農作物の殺蟲

不可能とみられてゐた北支の水田開拓の成功は食糧增産に大きな示唆を與へた

決戰下・華北交通の使命

農村の振興 2

從つてこの解決策としては、增產重要地區の設定が行はれることになつた。鑿井については百萬眼達成を目標に、昨年にひきつゞき二十萬乃至三十萬眼が豫定されてゐる。肥料の增配、種子の消毒、水田造成などもひきつゞいて强力に實施される

華北交通は以上對策施行の重要部門として、その活動を期待されてゐるが、創立以來、愛路村を通じて華北蒙疆の農村指導にかたむけた努力は大きなものがある。農村の振興と農民の向上は愛路工作の根幹をなすものとして、多種多樣、いたらざるものなしの方策が實施されてきたのである

農事知識の普及、改良助長、經營の指導、農地改善、造林植樹、副業奬勵などが計畫され、優良種子、種畜、樹苗農具類の無料配給および貸付、病蟲害の豫防驅除、家畜の防疫、品評會の開催等々が行はれてゐる。これら直接的な方法のほかに、各地に設けられてある大規模な農事施設が土の科學の樹立に邁進してゐる。通州の中央鐵路農場では、農、畜、林、農林化學、農產昆蟲の各科に分れて專門的研究を重ね、昌黎の分場では、園藝蔬菜の試驗を行つてゐる

日華協力によつて水田は着々と拓かれてゆく

農村の振興3

決戰下・華北交通の使命

また各地方の農場では、優良品種の選擇、栽培上の技術試驗を行ふと同時に種子種畜の增殖、造林造園用の樹苗育成にあたつてゐる

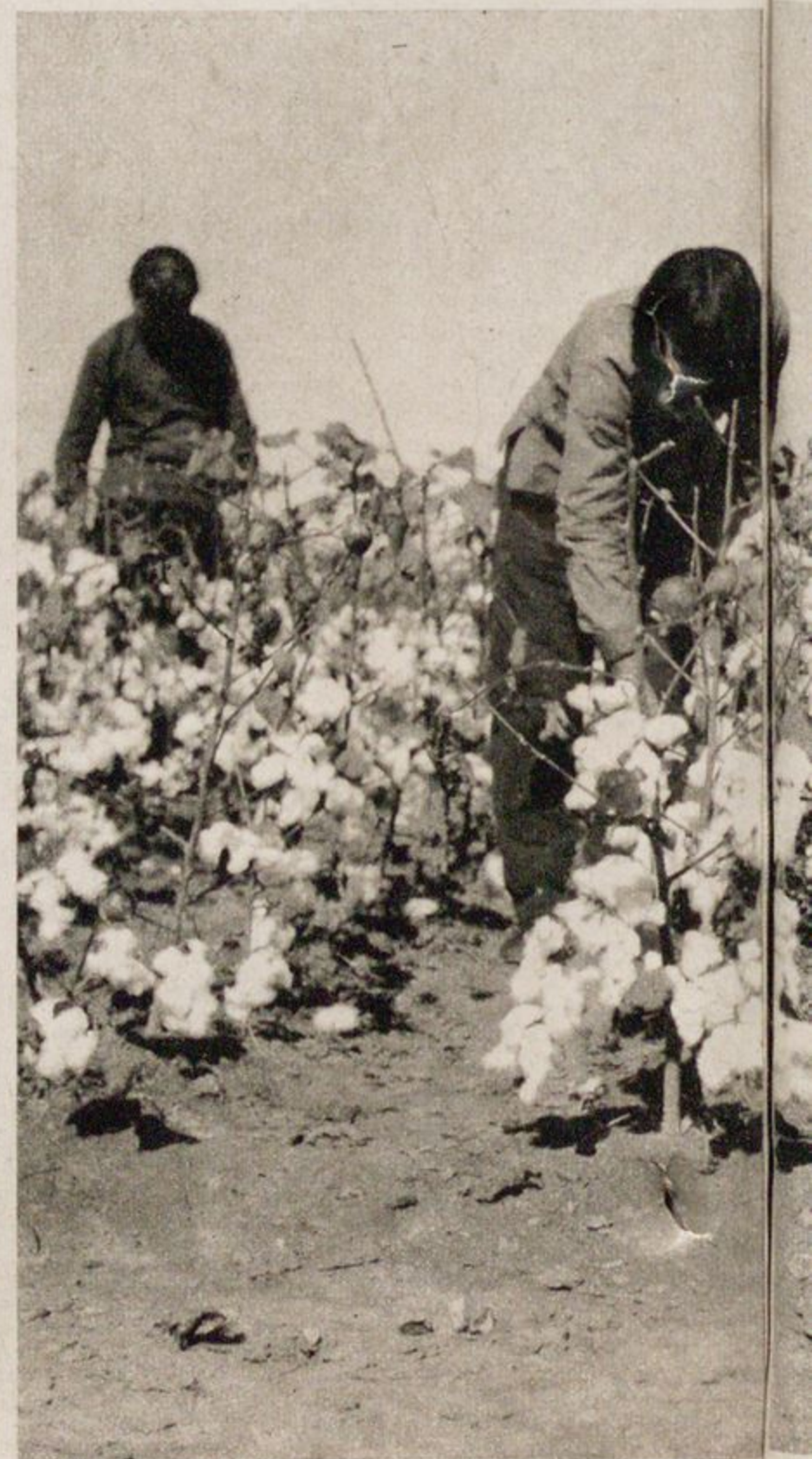
華北蒙疆の食糧增産對策上、今回、華北交通が全面的に經營を委託された淸化鎭（河南省北部）水田の開拓が大きな示唆を與へ、各方面から注目されて

農村振興の根幹である灌漑は愛護村民總動員の下に施行されつつある

どんどんほられてゆく畑の中の井戸

メリケン粉の原價配給

ゐる。この水田は一昨年以來、華北交通が河南省公署と協同で開拓にあたつてゐるもので、本年初頭すでに五百町歩が開拓された。十八年度はさらに二百五十町歩が豫定され、二千町歩乃至三千町歩造成が目標とされてゐる

なほ土地とともに人の開拓をも重視して、各地に愛路惠民研究所を設け、農村の中堅たるべき青年に對して、わが國の內原のごとき錬成と訓育が施されてゐるが、その將來は期待されてゐる

虐げられてきた農民は笑ひを取戻した

粗末な在來棉に代りつつある改良種

決戰下・華北交通の使命

保健・衛生

一年に數回北支全線各地を巡回する厚生列車には華北交通社員である醫師が多數のりこんで沿線住民の施療施藥に從事する

頭ほどある大きなこぶを首にこしらへてゐる奇怪な風土病患者。トラホームに目をたゞらした子供。戸板で運ばれる瀕死の病人。鼻もおちんとしてゐる花柳病患者

藥などは一生のんだことがない、醫者の顔など見たことのない彼等にとつては、厚生列車の施療は寔に救世主の恩ひである

最大の陣容・最新の設備と技術をもつ鐵路病院

大陸の氣候風土は日本と異り相當酷烈であり刺激性に富んでゐる。而も文化程度は甚だ低い、殊に衞生狀態は劣惡で傳染病や風土病の流行は寒心すべき狀態にあるに係はらず今まで豫防衞生の權威ある研究機關は絕無であつた。

北支の土地と人を開拓し啓發すべき使命を擔つてゐる華北交通は先づ豫防醫學の殿堂として保健科學研究所を北京に設け、地方病の調査研究、環境衞生の適否試驗、生化學的試驗調査、ワクチンその他細菌製劑、血淸の研究、獸醫學試驗、この他各部門に亙り眞摯な研究をつゞけ、明るく健全な大陸生活を築きあげようと努力してゐる

また北京始め八ケ所に堂々たる鐵路醫院を設置し各地數十ケ所に分院を設け社員及び住民の醫療にあたる外、病院のない寒村には前記厚生列車その他により出張して惠みの手をのべてゐる。

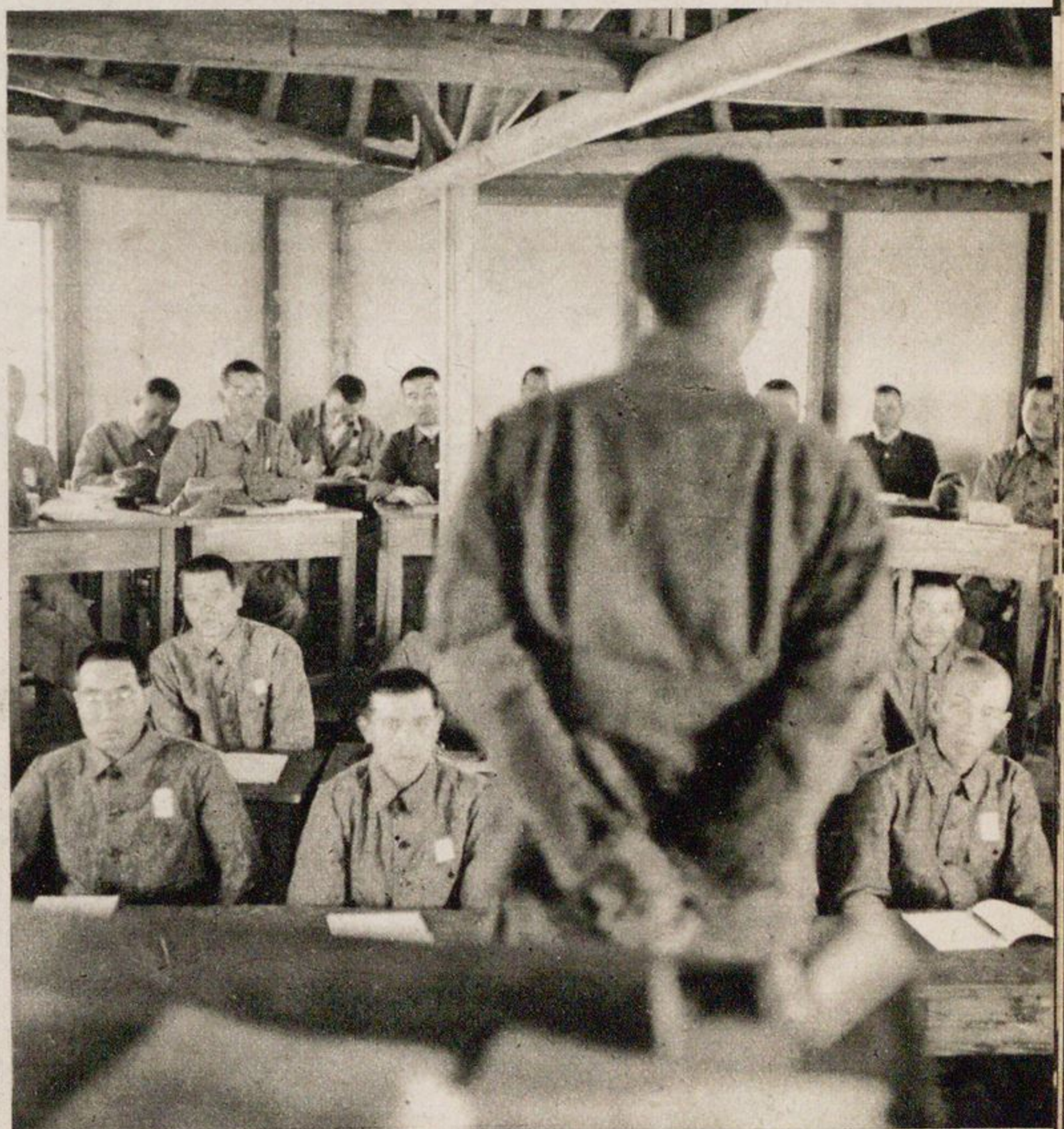
又、これらはそれぞれ地方病の調査研究を行つてゐる

やがてこれらの研究は大陸衞生問題の解決に偉大な成果を齎すものと期待されてゐる

「どうして飲むかネ」生れて初めて藥を飲むお婆さんはしつこく何度も何度も訊ねる。「一日三回三回だよ」と愛路科員が慣れた手眞似で念を押す。息子と嫁が「そんなにしつこく聞くな」と肩に手をかける。次に藥を貰ふ老婆も「三回」といふことを何度も自分でのみこんでゐる。耳を治してもらふおかみさんが痛がつて顏をしかめる。施療と施藥はいつも何かかうはりつめたやうな空氣が流れる。ひとわたりすむと緊張がとけた溜息といふか藥をもらつた歡聲といふか、どつとざはめきがおこつて、その中を村民たちはチイチイパアパア口々に聲を張り上げて喜びながら歸つてゆくのである。

決戰下・華北交通の使命

教育・錬成

次の時代を擔ふ子供の錬成——扶輪學校

愛護村の中堅人物は惠民研究所から巣立つ

華北交通は前記病院の外に學校も經營してゐる。北京には鐵路業務に關する高級な基本教育を施す中央鐵路學院があり各大都市には鐵路學院を設け現場業務の技術習得を目標としてゐる

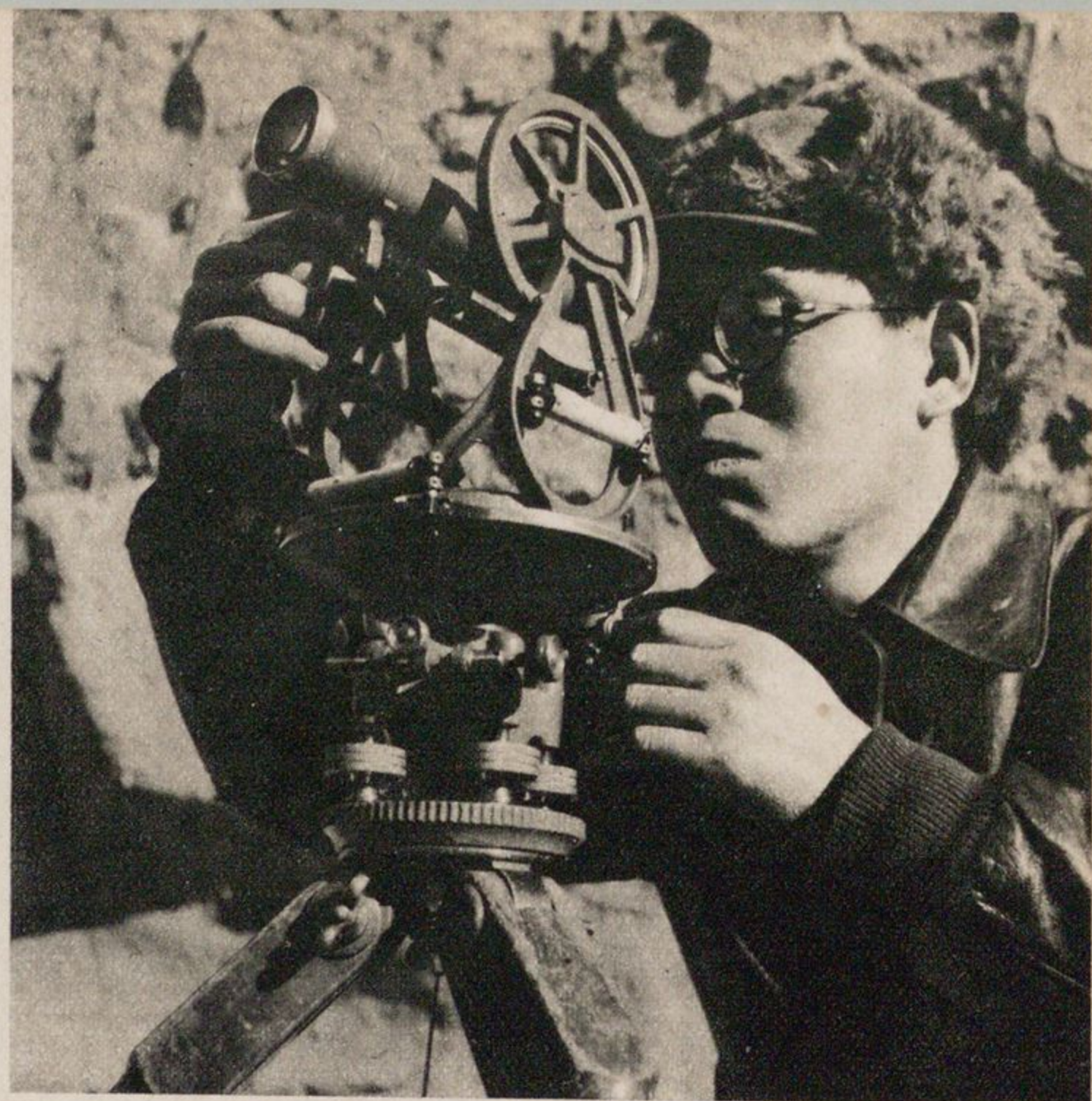
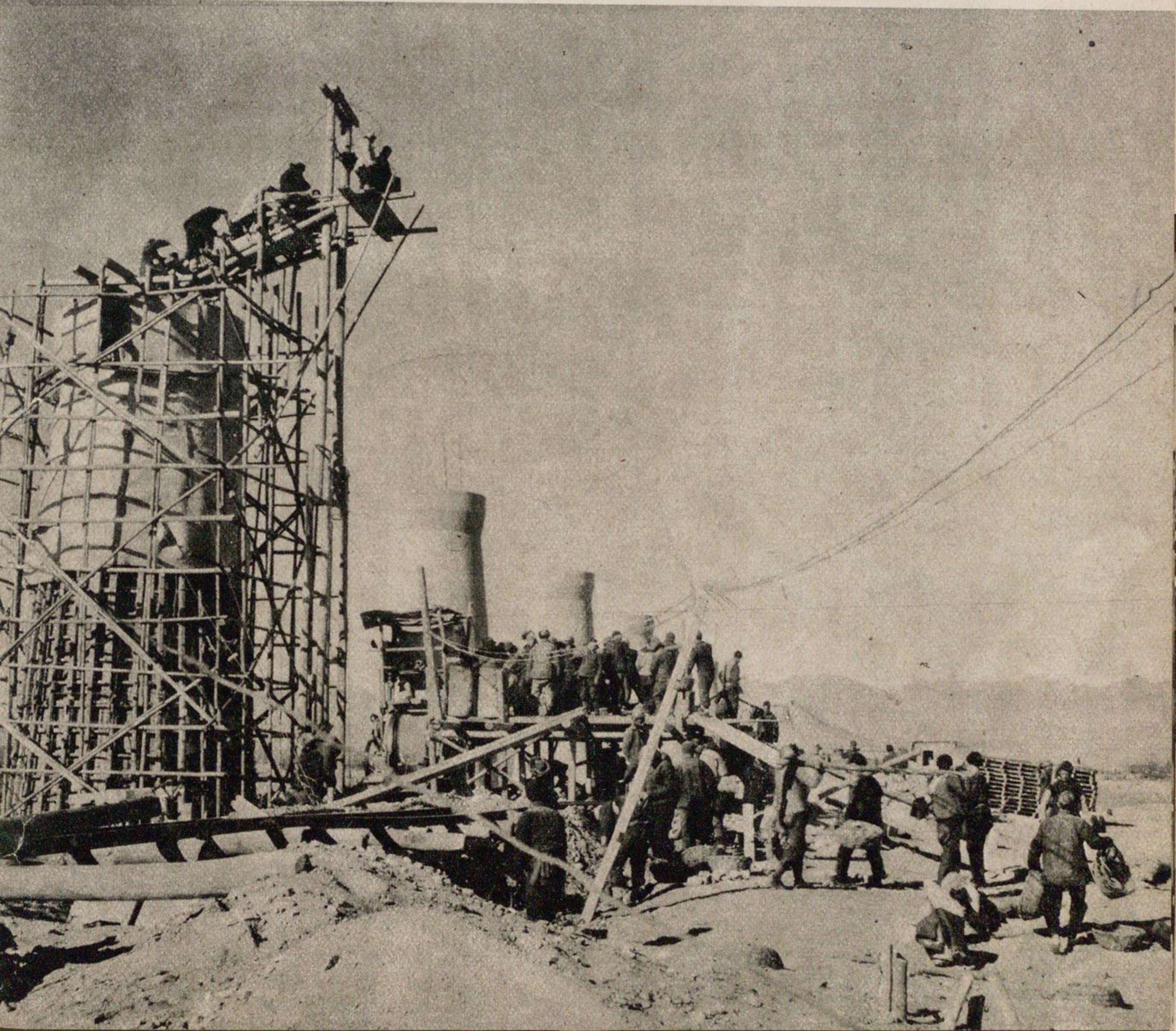
鐵路警務學院は警務業務に必須な智識及技能の收得と警務從事員としての德性の涵養を目的とし警務普通科、中等科、高等科および愛路惠民科、專修科の各科がある

この外會社は中國人社員子弟の初等教育機關として約三十ケ所に扶輪學校を經營し約一萬名の生徒に親日教育を施してゐる

中國青年に缺けてゐる純粋な熱情と烈々たる氣魄を錬成する警務學院

扶輪學校の生徒は全部日本語ができる

決戰下・華北交通の使命

交通建設 1

兵匪と瘴癘と自然の災厄に抗して新線建設は進む

もともと、不備不完全であつた華北蒙疆の鐵道は兵火によつてめちやくに（めちゃ〳〵に）なつた。蔣介石軍は皇軍の神速果敢な進擊をくひとめるために、或はレールをとりのけ、或は路盤をこはし、或は鐵橋をおとし、徹底的に破壞しつくして逃げた。ほとんど使用することはできなかつた。しかし、急追のまへには一刻の猶豫も一切の困難もなかつた。皇軍勇士と鐵道從事員には、かうしたことを克服することのみがあつた。彈丸雨飛のなかにあつて、枕木がかつがれ、橋桁がきづかれた。或ものは犬釘うちこみのハンマーをふりあげたまゝ擊たれた。或ものはショベルをにぎりしめたまゝ倒れた。まさに血涙にじむ苦闘である。これが幾回となくくりかへされつゝ戰線はひろがり、戰果はあがつた。なかでも、峻嶮、八達嶺隧道の啓開作業、黃河・淮河兩鐵橋の架設工事、同蒲線の北半・石太線の改軌工作などは、じつに、かうした惡い條件のもとで、みごと、やりとげられたのである

事變勃發と同時に滿支國境を越えて、勇躍乘りこんだこれら交通戰士は恰も影の形にそふごとく皇軍勇士について戰時輸送の重い任務に挺身した

日本の戰力を培ふ輸血路はぐんぐん伸ばされつつある

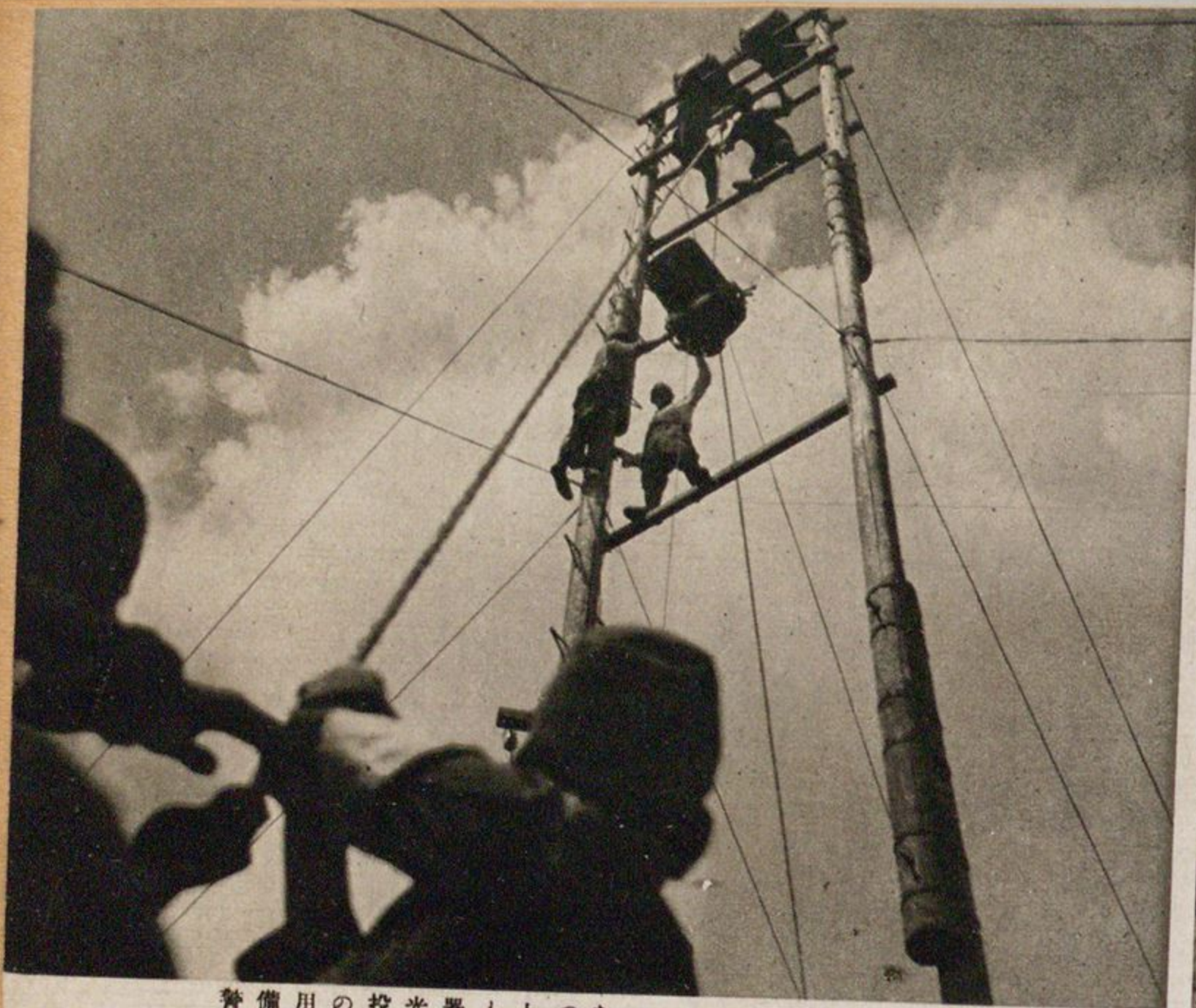
長い間の辛苦が實を結んで、いま晴の試運轉列車が行くのだ

決戰下・華北交通の使命

交通建設 2

作戰と建設は同時におこなはれなければならない。兵馬倥偬のあひだ復舊工事とともに新線建設も逞しく進められた。鐵道密度の低い華北蒙疆は兵站基地としての役割が增大するにつれて鐵道はなほさら不足が痛感された。一粁でも伸ばされゝば、それだけ戰爭と開發に役にたつ。あらゆる艱苦をしぼつて建設の死鬪がいまなほつゞけられてゐる

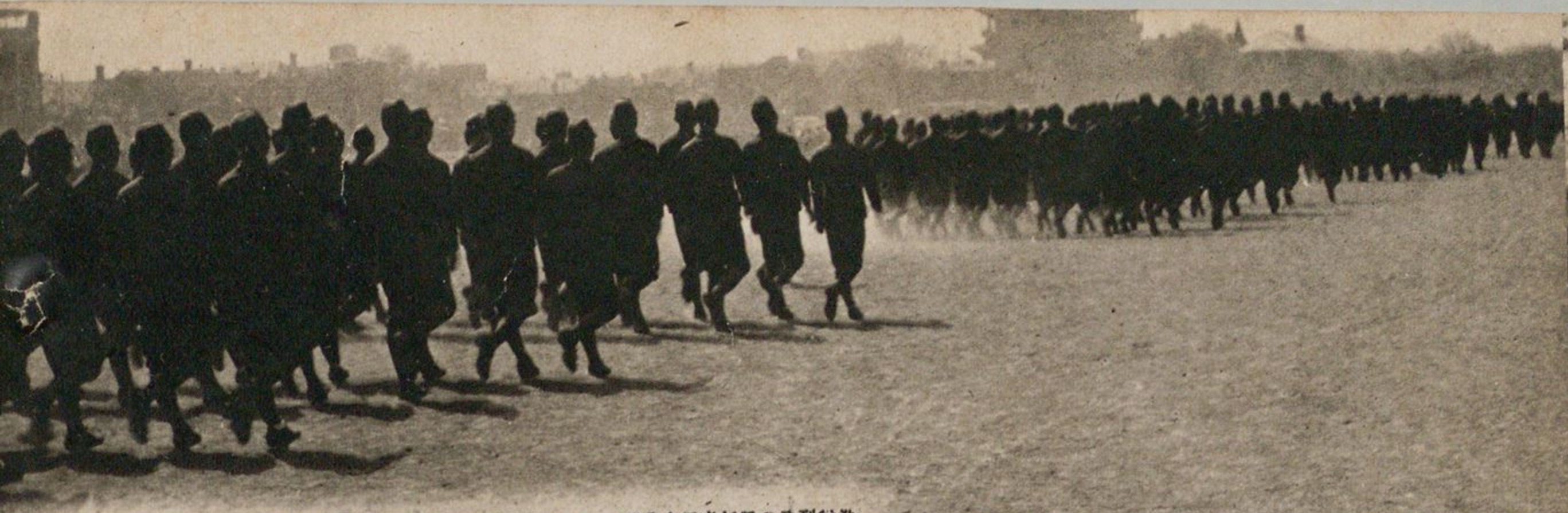
事變直後敷かれた京古線を第一著手に、すでに一千粁にたつする新線がまうけられた。即

新線の路盤には愛護村民一人一人の隠れた眞心が積み重ねられてゐる

警備用の投光器も上つた

最後の仕上げ、バラスの搗き固め

客車が事務所になり住宅になる。間に合せより一歩進んで無より有を生ぜしめてゐるのである

ち新開線、東潞線、石德線等十數ケ線がそれである。そして、いま更に、大同炭の對日輸出のため大同——塘沽間の同塘線と日滿支連絡の京山線の複線工事が、それぞれ進められてゐる

華北蒙疆の鐵道は、じつに、皇軍勇士と鐵道從事員の尊い犠牲の上を走つてゐるといつても過言ではなかろう

戰場即職場に挺身する從事員は日頃の錬成が最も要求される——華北交通青年隊の分列行進

一文字山は華北在留邦人の聖地である。彼等は事あるたびに此の地に参集、過去を想起し、變轉極りない現時局下、絶對不退轉の覺悟を新たにするのである

決戰下・華北交通の使命

使命を果すもの

決戰下華北交通十五萬社員はその使命の重その光榮の大であることを思ひ、東亞民族の負託に應ふべく殉職同僚社員の屍をこえて進む決意を固めてゐる。前途を興亞の百年戰爭と觀じ、建業の礎石として子孫と共に大陸に墳墓を定むべき覺悟をもつてゐる

華北交通全社員がそれぞれの職域に於て日常復唱し以て實踐の基本となしてゐる社訓を揭げよう

社訓

一、善隣協和ノ大義ヲ宣揚スヘシ

一、大陸交通ノ使命ヲ達成スヘシ

一、滅私奉公ノ職責ヲ完遂スヘシ

一、修身齊家ノ常道ヲ躬行スヘシ

執拗なる八路軍に對しては女子もまた男に代つて警備に立たねばならぬ——華北交通女子青年隊の軍事教練

中國參戰と華北の責務

大島德彌

參戰の意義と日華の新關係

中國は去る一月九日遂ひに米英兩國に對して宣戰を布告した。これは永年の間米英の壓制下に苦しんだ中國が自ら進んで彼等米英の一掃と東亞解放のために起ち上つたもので、「アジアはアジア人の手で」と叫んだ國父孫文の素志であり、新中國唯一の出路である大アジア主義實現の機會をここにつかんだのである。

一昨年十二月八日大東亞戰爭勃發以來、中國國民政府は同甘共苦、我が國と苦樂を共にし大東亞戰爭の完遂に努力しつつあつた。然るに米英は百年來の東亞分裂政策を改めず、重慶僞政權を使嗾して新中國建設を妨碍し、或ひは重慶側を根據地として自國の飛行機をもつて武漢、廣東などの諸地域を爆擊して無辜の民衆を殺害した。ここに於て國民政府の新中國建設妨碍の禍根は單に重慶ばかりでなく、その背後にある米英の謀略にあることを見拔き、これを打倒しなければ建國の目的は到底達成できないことを悟つて、敢然起つて、米英に對し戰ひを宣するに至つたもので、かくて中國は日本と直接共同の戰爭に從事することとなり、兩國の關係は從來の「同甘共苦」より一步を進めるに至つたのである。

中國參戰によつて兩國の間には「戰爭完遂についての協力に關する日華共同宣言」が調印された。この取極めは從來の條約とか協定とかいふ形でなく共同の宣言である點に新らしい意義を見出すことが出來る。戰爭完遂への協力は兩國にとつて權利や義務の問題ではなく、兩國がお互ひに一つになつて勝ち拔くまでやり遂げようと云ふ決意の下に宣言されたもので、所謂、同生共死友邦日本に協力して大東亞戰爭の完遂を期せんとするにある。

又この共同宣言の調印と同時に租界還付及び治外法權撤廢等に關する新らしい協定が結ばれた。租界といひ治外法權といひこれらは阿片戰爭の結果生れた米英による東亞搾取の金城湯池であつて、これまで中國があらゆる機會に脫却しようとして果し得なかつたものである。

日本はこれら權益の還付と撤廢との外に今後、日華兩國新關係の發展に應じてこれまで兩國の間に締結された幾多の條約等の約定についても、今日の協定と同一の精神を以て改めて考へることを聲明し、又中國にある敵性權益の返還についても好意を以て當ることを約した。

日本のこの樣な措置は、日華提携の根本精神に則る兩國關係の劃期的な發展を期待すると共に、中國の自主獨立と、國民政府の政治力發揮とを根基とする新中國の速かな建設を援助しようとするものであつて、重慶側の抗戰名目はこれによつて完全に喪失するに至つたのである。

内容

第五卷 第四號

グラフ

よみもの

華北の責務

華北は大東亞戰爭以來、所謂、兵站基地として任務達成に努力邁進し來たつたが、國民政府の參戰によつて大東亞戰の當事者となりその責務も絶對的となつた。

一月九日、參戰に當つて華北政務委員會委員長王揖唐氏が指摘された如く華北の責務は治安の確立、農產物特に食糧品の增產、及び國防用重要資源の增產開發の三大目標にある。

一、治安の確立

抑〻治安は一國存立の根元であつて政治、經濟、文化凡ゆる國家施策は皆治安を前提として成立し且圓滿なる遂行を期待し得るのである。大東亞戰爭の進展は今後、如何なる新局面を展開するか全く豫想を許さない。この場合華北は北方を固むる最良地域にあり、その急速なる治安の確立と民生の安定が要望されてゐる。現在華北の重要據點は殆ど完全に治安を掌握してはゐるが今尙、その他の地區に於ては共產軍の蠢動が絶えないのである。支那事變以來、華北の治安は日本軍の努力によつてその治安が圖られて來たが、いつまでも日本軍に賴るべき性質のものではない。その現れとして民國三十年來五回に渉つて治安强化運動が行はれて來たが、參戰後その責務は層一層倍加された。

二、食糧品の增產

華北自體が第三國に依存して來た物資は當然今後輸入を期待する事が出來ないし、又日本からの輸入物資も大東亞戰爭下、日本の負擔を輕くし戰鬪力の增加を圖るため、その減少を免れない。特に戰前中支を通じ濠洲、カナダに依存しつゝあつた麵粉の杜絶、水害による農產物の減收等による食糧難の解決は緊急の問題である。然るに日本は勿論、大東亞共榮圈內よりの供給は甚だ困難であり、華北自體その自給對策を講ぜねばならないのである。現在軍官を中心に廣汎なる食糧對策が樹立されつゝある。

三、國防用重要資源の增產開發

國防重要資源の開發增產は華北の擔ふ責務の中でもつとも重要なるものである。大東亞戰爭勃發によつて日本は豐富なる南方圈資源を獲得したが、この南方圈資源のみでは到底大東亞共榮圈の建設は望めないのである。二月十八日貴族院增稅委員會で「南方資源が獲得された以上華北の重要性が失はれたなどといふ向があるが政府はどう考へるか」と質したのに對し賀屋大藏大臣は次の如く華北資源の大東亞建設上極めて重要な地位を占めることを闡明してゐる。

「華北は非常に有望でこれを除いては共榮圈の建設は到底望めない、石炭の埋藏にしても二千億トンに上り强粘結炭、無煙炭などはわが製鐵工業に缺くべからざるものである。鹽は華北でもつとも多量に出來、わが化學工業には不可缺のものである。龍烟鐵鑛は五十パーセント以上の品位をもち埋藏量も豐富である。その他黃河の發電力、肥料工業などが出來れば、食糧、棉花の增產などに供するところが極めて大きい。以上をもつてみても華北はわが國にとつて將來とも極めて大事な地域である」と。

華北資源の中で特に石炭の如きは埋藏量二千億トン、共榮圈全埋藏量の七〇%を占めると云ふ莫大な數字を示してゐる。山西省だけでも一千百五十億トンこれ丈で既に我が國の七倍、滿洲國の六倍に達してゐる。

鐵の埋藏量は僅かに三億トンではあるがその品位においても南方圈のものに比べ、幾分落ちると云はれてゐるが、輸送船舶の問題によつてその缺を充分補なつてゐる。即ち遠隔の地にある南方圈の輸送量の約四倍を示してゐるのである。このやうに船舶輸送量の差が大となると多少の品質や埋藏量の相違などは今日では全く問題にならないのである。したがつて華北の鐵鑛石が日本の製鐵事業に對して持つ役割は今後ますます大きくなるものと期待されてゐる。

華北の棉花は事變前已に米國、印度に次いで世界第三位にあつた中國全產量の五〇%五億斤を產出してゐる。東亞共榮圈七億の住民が消費する棉花は極めて多量に上り最低に見積つて年二十五億斤と云はれてゐる。華北當局ではこれに對應すべく十ケ年計畫十億斤增產に向つて努力しつゝある。

華北には長蘆鹽、山東鹽、海州鹽、その他池鹽など豐富な鹽資源がある。特に長蘆鹽は天日製鹽にとつて凡ゆる理想的條件に惠まれ世界一の最適地と稱されてゐる。日本の化學工業は、近年急速に躍進し、工業鹽の需要量は頓に增加してゐるが、北支の鹽だけでその大部分を賄ひ得ると云はれてゐる。

これ等の外に羊毛、アルミニウム原料としての礬土頁岩、タングステンなどが豐富に埋藏生產されてゐるが、華北の一億官民火の玉となつて之等資源の增產開發に邁進してゐる。

（筆者・華北政務委員會情報局專員）

第一線に敢鬪する交通戰士

北　恭　道

大東亞戰爭の兵站基地として、聖戰完遂上極めて重要な責務を擔當する北支の動脈として、華北交通會社が現在運營する鐵道は約六千キロ、自動車約一萬五千キロ、內河水運約四千キロに及んでゐる。

「交通なくして建設なし」との確固たる信念を抱いて交通奉公の職域に挺身する從事員は日華合せて十五萬人。彼等は皆それぞれの持場持場を守つて戰時輸送の大任を果すべく獻身的努力を續けてゐるのである。

だが然し、交通の確保は單に十五萬從事員の努力精進の賜のみではない。その蔭には、職場に尊き紅血を濺いだ幾多殉職者の不滅の功績が燦と輝いてゐるのである。

昭和十二年七月七日、蘆溝橋畔に端を發した支那事變勃發以來約五年、不朽の名を留めて散華した殉職者は既に一千名を越えてゐる。

何れも旺盛なる責任感と熾烈なる犧牲的精神を發揮して餘すところなく、その果敢壯烈なる活躍奮鬪振りは鬼神をも泣かしめるものがある。

まことに交通戰士は武器なき戰士。これ等幾多尊き犧牲者の芳魂を礎石として、交通路線は日と共に伸び、同僚の屍を踏み越えて十五萬日華交通戰士は職域に挺身してゐるのである。

左記はほんの一例にしか過ぎないが手許の資料から殉職者の奮鬪狀況を摘記して、社員健鬪の一端を窺はう。

死して猶ほ操縱六粁

自動車司機員　高橋正一郎君

高橋君は平素より上司同僚の信望厚く、仕事に熱心な青年社員であつた。

自動車司機員として軍に派遣されて後も、その陰日向ない精勤振りは、警備隊長の目にとまり、大變可愛がられてゐた。彼は〇〇警備隊に屬してゐたのである。

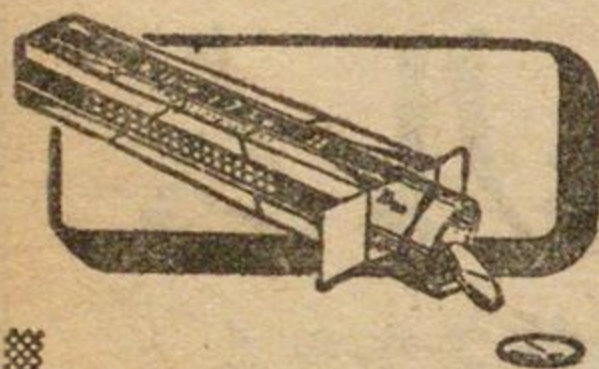
昭和十〇年九月十五日、自動車「二五八號」に兵〇名乘車、高橋君が運轉して、青島特別市南沙嶺より南村といふ部落へ連絡用務のため赴いた。

無事任務を果しての歸途、午後八時五十分頃、南沙嶺地區姚家埠の南方二〇〇米の地點に差懸つた時、道路近くの廟の陰に潜伏中であつた敵匪約三十名から、突如一齊射擊を受けた。

車上の連絡兵は、時を移さず應戰し彼我の銃聲は物凄く、敵彈は雨霰の如く落下する。車體には既に幾發かの敵彈が命中してゐる。

高橋君は、敵の猛射に怯まず、咄嗟に中央强行突破を決意した。車を停めては我に不利である。彼は猛烈な速力で車を走らせた。

不幸、敵彈は高橋君に命中した。右側腹部と胸部の貫通銃創、致命的重傷である。噴出す血汐は全身を眞紅に染めた。だが彼は懸命に操縱を續けた。苦痛に顏を硬直させながらも、手は操縱桿をしつかりと握り締めてゐた。

漸やくにして敵の射程を脫することは出來たが、その頃には張り詰めた氣力も殆ど衰へてゐた。氣息は次第に奄奄として、間もなく彼は遂に絕命した

元賣發造製
東洋製藥貿易株式會社
大阪市東區道修町

のである。
匪襲現場から約六キロ、一路直線道路を走つてゐた自動車は、カーブに差懸つた。車は横に曲らず、眞直に突走つて畑の中に乘入れ、此處で始めて停車したのである。而もまだ彼は操縦桿を固く握つたまゝの姿であつた。
飽くまで責任を重んじ、死して猶ほ魂の操縦を續けて、無事死地を脱出したのである。その旺盛なる責任感には聽く者誰一人感動せぬ者はなかつた。
局葬の禮を以て篤く弔はれ、社員の龜鑑として表彰狀竝に功績章が追授せられたのであつた。

重傷の身で必死の連絡

警務員　松井辰三君
警務手　傳寶蔭君

京山線唐山地區の第八路軍系匪約六百名は、唐山北方の山岳地帶に蟠踞して、鐵路の破壞や站舍の襲擊等の謀略行爲を企圖する外、沿線愛路地帶に出沒しては暴威を逞うし、後方治安の攪亂に狂奔してゐた。
之に備へて、唐山警務段塘坊分所の橋口分所長及び松井警務員は部下を把握指揮し、昭和十〇年十二月十四日以降、命に依り鐵路非常警戒を實施し、且つ十二月二十五日以來年末年始の警戒も併せて、鐵路巡視、站舍の警備、その他愛路工作等治安維持のため全力を傾注努力しつゝあつた。
偶々翌年一月三日の眞夜中のことである。
松井警務員は分所長と共に警務分所事務室に於て、警備配置その他非常對策の打合せを行ひ、午前零時三十分、分所長は程遠からぬ部落內の自宅に引取つた。松井警務員は武裝のまゝ站本屋居室に入つて假眠に就いた。一方、傳警務手は同僚〇名を居室に假眠せしめて、自らは動哨しつゝ站四圍の警戒に任じてゐた。
午前一時十六分、天津行列車の通過後、站東方五〇米地點線路附近に多數の人影あるを發見した傳警務手が誰何したところ、「射て、射て」と連呼する聲を聞き敵と直覺、其の場の掩體を利用して之に射擊を加へた。
此の銃聲を聞いた松井警務員以下全警務手は、直ちに警務室前掩體に據り反擊を開始したが、敵約一五〇名は亂射しつゝ、站本屋東西北三方から肉薄殺到し來つた。
松井警務員は動ずる色なく部下を把握激勵し、敵の前進を制壓したが、不幸敵の一彈は右肩胛部に命中し、續いて第二彈を下顎部に受けたが毫も怯まず、一層奮鬪中第三彈を咽喉部に受け遂にその場に昏倒した。
松井警務員の昏倒したのを目擊した警務手達は、更に動ずる色なく敵に反擊を加へたが、屋外戰の不利を悟り、逐次屋內に後退して應戰を繼續中、本站襲擊中とも知らずして列車が構內に進入して來た。匪團は之に盲射を加へたが、救援列車の到著と誤認して士氣沮喪したところを一齊猛擊を浴びせかけられ、浮足立つて東北方に遁走を開始、離隔した。時に、午前一時四十分で、戰鬪開始後、約三十分を經過してゐた。
一方重傷昏倒中の松井警務員は間もなく意識を恢復し、此の顚末を本段に報告せんものと、站運轉室に這込み、壁に手を掛けて電話機に寄らんとしたが、出血多量のため再び昏倒、暫くして再度意識を恢復し、漸く受話機を手にはしたが、匪彈咽喉部に命中せる爲發聲不可能となり、遂に報告を斷念、分所事務室に至つて氣息奄々たるところを、救援隊に收容せられたのであつた。
松井警務員の負傷した警務室前掩體附近、及び報告の爲這込んだ站運轉室

さくらフヰルム
躍進日本の代表的フヰルム
一般用に　スペシアルクローム
戶外用に　パンクロF
夜間用に　パンクロUSS

内等は一面鮮血にまみれ、電話機の取附けてある壁、扉、銃床等は血の手型無數に附着し、凄慘を極め、松井警務員が如何に報告せんとして必死の努力を傾倒したかを、生々しく物語つてゐた。

松井警務員の旺盛なる責任感と、傭警務手の果敢なる奮戰振りは、會社當局を感激せしめ、篤く表彰せられたのであつた。

重傷の同僚に代り懸命の運轉

自動車司機員 蕭 德 清君
自動車車守 馬 文 傑君

蕭司機員と馬車守の乘務する自動車は、旅客を載せて滄縣から鹽山に向つて走つてゐた。

正午頃、滄縣から六五粁の地點に差懸つたが、この附近一帶は道路不良の爲時速二〇粁を以て運行中、突如右側畠中から約三、四〇名の便衣隊より一齊射擊を受けたのである。

蕭司機員は匪襲と感ずるや、直ちに現場を突破すべく決意し、加速處置を講じた刹那、運轉扉を貫いた匪彈の爲右大腿部に骨折盲貫銃創の重傷を受けたのである。豪毅な蕭司機員は、多量の出血と激痛を忍び、沈着果敢、凹凸激しい惡路を正確な運轉を續け、遂に匪團の襲擊範圍を脱出、約六粁を前進〇〇警備隊に到著したのは午後零時十五分であつた。

直ちに顚末を報告したが、同地守備隊には軍醫なき爲、更に八粁東方の〇〇警備隊で治療を受けさせることとし假繃帶の上出發させることにしたが、出血と激痛の爲自動車運轉は不可能となつてしまつた。而も外に自動車操縱の技術を有する者とてはなく、このまま放置すれば一命にも係る狀態となつたのである。

馬車守は多少の運轉技術を修得してゐたのを幸ひに、意を決して直ちにこの大任を引受け、同地を午後二時に出發、八粁先の目的地に到著したのは午後三時半であつた。此處で蕭司機員に假治療を受けさせて、更に鹽山まで約二五粁の區間を無事運轉し、再度司機員の治療を受けさせて待機中、出動した急援車が到着したのであつた。

當時自動車路沿線の治安は惡化して匪襲事故各地に起りつゝある際、唯單に路線に就行すること自體が既に多大の犧牲的精神を必要とする情勢下に於て、兩人は敢然乘務したのである。而も匪襲に直面するや斷乎之を突破すべく加速處置を講じた際、不幸匪彈にあたり骨折盲貫銃創の重傷を受けるに至つたのである。平常の狀態で受傷したのであれば、再び起つ能はざる重傷であるにも拘らず、偉大な責任感と勇猛心を發揮して、五粁餘に亘る長區間の惡路を正確に運轉して遂に匪團の襲擊範圍を脱出し、警乘兵、旅客、車輛に事なきを得せしめ、被害を未然に防止することが出來たのである。この熾烈な犧牲的精神と職務に忠實なる點は皇軍部隊長からも激賞せられたのであつた。

一方、同僚の重傷を目のあたりにして馬車守は、自分が多少の操縱心得あるを幸ひに、司機員に一刻も早く治療を受けしめんものと、自らこの大任を引受け、決然、操縱桿を握つたのである。

そして八粁の區間を實に一時間三十分を要した事實よりして如何に拙劣な技術を以て運行に苦心したかは想像に難くなく、而もその間無事故で目的を完遂し、重傷司機員の生命の保證確保に寄與した點は誠に推賞さるべきである。

兩名は共に會社當局から表彰を受けたのであつた。

發明考案に健鬪する人々

濱　磯吉

荒涼たる前線生活と、繁忙な業務の餘暇を活用して、默々として工夫改良への努力を重ね、遂に完成して社業へ多大の貢獻を齎した華北交通社員はその數尠くない。所謂、發明專門家の發明ではなくして、自分が日頃掌つてゐる業務の上で「此處をかう改良したら――」とか「これでは不便だから何かよい工夫は――」とか、つまり擔當業務を愛し、責任を立派に果したいといふ、已むに已まれぬ職場への熱情が生み出した工夫考案であるがゆゑに、一層尊きものであるとも謂ふことが出來る。旺盛な責任感、滿腔の愛社心が、仕事に疲れた軀を鞭打ち、崩れんとする心を勵まして、美事な成果を擧げたのである。

兎角、發見とか工夫改良といふものは、他人が仕上げたのを見ると、「何だ詰らん、こんな物……」と思はれるが、さてそれを最初から獨力で頭を捻り、失敗に失敗を重ねた末、やつとやり遂げた成功の裏には、傍からは想像も及ばない血の滲むやうな苦心が祕められてゐるものだ。出來上つたものゝ大小優劣は、問題でない。それが些かたりとも社業に利する點がありとすれば、吾々はその考案者の苦心と努力に對して心からなる敬意を拂はずには居られない。

第一線に銃を執つて奮戰する社員の健鬪物語は、謂はゞ派手なものであるが、薄暗い灯の下で默々と工夫考案に心血を注ぐ精進振りは、まことに地味なものである。だが然し、それが見事成就の曉には、大陸交通の使命達成へ邁進する社業の上に一大寄與することを思へば、その功績は小さくない。その意味からして、社員の考案物語は、とりも直さず、社員の健鬪記なのである。

數ある工夫考案の中から二三を取出して摘記し、社員の健鬪記の一節としよう。

長距離選擇呼出し電話裝置

華北交通電氣局副參事村谷勇三郎氏竝に之が協力者たる同局職員坂本七三郎、同戸田捷五郎、北京電氣段職員松本美雄の三氏が、四年有餘の間心血を注いで考案した「長距離選擇呼出電話裝置」は、本邦は勿論世界的にも優秀な鐵道通信の新型式で、通信界に新紀元を劃するものであり、關係各方面から多大の賞讚を博してゐるものである。

この新裝置は兩端局間に於ける選擇呼出方式として、相手加入者別に〇〇信號方式を創案採用し、從來のイムパルス呼出方式で困難を覺えてゐた遠距離の選擇呼出を極めて容易ならしめると同時に、架空裸線及搬送回線共に適用することが可能である。この考案は、呼出の確實と取扱の簡易迅速な點が最も優れた特徴とせられてをり、確かに通信界に一新野を開拓したものである。この考案が直接交通運營に齎した主なる利點としては左の三點を擧げることが出來る。

「長距離選擇呼出電話裝置」考案者（右より）村谷勇三郎氏、松本美雄氏、坂本七三郎氏、戸田捷五郎氏

一、本裝置による電話回線加入者は、〇〇により極めて簡易迅速に所要の相手加入者を呼出し得る故、直通專用電話施設としては、理想的なもので、業務能率向上に資するところ多大である。

二、中間に一切の電話交換手を介在せしめず、又通話中は他の加入者が絶對に傍聽出來ぬから、搬送回線に採用すれば、機密保持の點で理想的で、防諜上極めて有利である。

三、電話交換手を必要としないから、人件費を節約し得るのみならず、本回線一本で直通專用回線數本を兼ねしめ得る故、經濟上甚だ利益が多い。

この、優秀な電話装置考案の裏面には、功勞者四氏の並々ならぬ努力精進が祕められてゐる。支那事變勃發後日もまだ淺い昭和十二年、硝煙漂ふ現地に於て創案は着手せられた。活潑な作戰の進展に伴つて、野戰鐵道司令部初め各戰時鐵道機關は、夫々專用電話回線を必要としたが、從來の型式では複雜な上に多數の回線を要するので、一區間一回線を以て、同時に而も夫々別個の通話が出來るやうな新裝置の考案を痛感せしめられた。電氣關係業務を掌つてゐて、この間の事情を十分知つてゐる村谷氏は「きつと方法があるに違ひない。自分がやつて見よう」と決意した。坂本、戸田、松本の三氏を助手として繁劇な業務の傍らこの大考案にとりかゝつた。爾來一年餘、寢食を忘れた努力は遂に實を結び、昭和十四年春、漸く設計を完了した。

トラフイツク及び經濟檢討も極めて好成績裡に了り、その年の四月には機器を内地に發注、十五年七月に現品が到著した。先づ一組を北京—天津間に設置して試用したところ、豫想以上の好成績で、こゝに苦心滿三年の辛勞は輝かしき結實を示したのであつた。その後も引續き研究を重ね色々工夫改良が加へられたので、今日では殆ど完成の域に達し、四氏粒々辛苦の研究は國家的考案として、戰時下日本の通信界に大きい貢獻を齎したのである。

自動車の潤滑油溫熱器

多期寒さの爲に、デイゼル自動車のモビールオイルが冷え切つて、スタート・エンジンのかゝりが非常に惡く、運轉手が每朝苦勞してゐるのを、職場の窓から每日じつと見てゐた華北交通天津自動車營業所の營業主任吉原年松氏は、

「この不便不自由を解消するには潤滑油を溫めればよいのだ。簡便に溫める方法がきつとある筈だ。」

といふので、早速その研究に着手した。

大體滿洲では、炭火を自動車の車體の下に入れて溫めてゐるが、これはガソリンに引火の危險性があるので、餘り感心した方法ではない。この外に、安全で簡易な方法はないものかと、吉原氏は頭を惱した。

ふと氣が付いたのが、油倉庫にころがつてゐるドラム空罐と、室内採煖用ストーブの餘熱である。空罐を横にして、側面に栓を上下二箇取付け、これを遊んでゐるストーブの上に掛けるといふ仕組である。至極簡單な裝置であるが、使つて見ると仲々調子が好い。使つて古くなつた潤滑油を罐に入れて溫めると、下部に埃などの殘滓が沈澱し、上部空間へは揮發油と水蒸氣が上昇して、中間部には潤滑油だけが殘り而かも適度に溫まつてゐる。下の栓をひねると殘滓を取出せるし、上の栓を捻ると立派な潤滑油が溫まつて出て來る。再生を兼ねた便利至極な溫熱器である。その多天津自動車營業所で使用したところ、結果は極めて良好で、どんな酷寒にでも樂々とエンジンがかゝるやうになり、成績優秀の折紙がつけられた。總裁から表彰狀を授與せられたのは、それから間もなくであつた。

吉原君は天津へ來る前、津浦線の德縣自動車營業所に勤務してゐた。その當時、自動車部分品の或る小さいバネが破損した爲に、動けなくなる自動車が續出する。修理の爲休車するので、

美しい色
素晴しい文字
王冠インキ
大阪・東京・小倉
株式會社 澤井商店

自動車運營上、多大の損害である。丈夫な代用品でこのバネを作つたらよいのだと思ひ付いた吉原君は、思案に思案を重ねた擧句、現地産の楊柳に着目し、その枝を使用して、代用品を作製し、實際に使用してみたところ、鋼鐵製の本物より寧ろ好成績を擧げて、爾來この木製バネを使用することによつて休車率をグンと減らし、その時は天津鐵路局長から表彰せられてゐる。

「お互に改善、改良のヒントを與へて貰つて、その研究に熱中すると、自然に希望や樂しみが生じて、生活が明るく豊かになるのではないかと信じてをります。濕熱器にしても、スタートがかゝらぬといつて愚痴をこぼしてゐるよりも、何とか工夫すればよいではないか、といふので考案に取掛つたもので、愚痴より先づ工夫です。皆の者が心を一つにして工夫して見ると、ちよつとした思付きで案外便利なものが考案出來るものです。」

と、信念を洩す吉原君は、脇目もふらず職場に挺身してゐるのである。

放射通風型石炭瓦斯發生爐

聖戰完遂途上絶對必要性から生れた時代の寵兒「石炭自動車」については、華北交通では世間に魁けてずつと以前から研究を續けてゐる。この技術陣の一員――工作局勤務の平島泰雄氏が發明した「放射通風型石炭瓦斯發生爐」は、華北交通で最初の特許許可となつたものである。

平島君は、石炭自動車が漸く實用期に入つたばかりの昭和十五年に、早くも代燃車の重要性に着目し、當時の工廠課長始め周圍の人々の支援を得て研究に着手した。傍の者が驚嘆するほどの豊富な才分と旺盛な研究心は、それから約三年の間に既に三種類の研究を完成した。何れも特許申請の手續を採つたが、そのうちの一つが、先づ許可となり、會社最初の特許權獲得者としての榮譽を擔ふことになつたわけである。

普通の石炭瓦斯發生爐は、爐の基底部から、空氣と水蒸氣を送り込んだ場合、ガスが限られた範圍のみを通過して上昇するため、熱の損失が多いといふ缺陷がある。平島氏の發明は、その名稱が示す如く、放射狀に熱を放散する關係上、ガスの品質を向上せしめながら、熱の損失を最少限度に喰止め得るといふ利點を備へてゐる。即ち、從來の型式と比較して新發明の爐の特徴としては、左の點を擧げることが出來る。

一、發生ガスの品質向上に據る出力の增加

二、負荷の變動に對する順應の迅速

三、熱効率の向上に據る燃料消費量の減少

四、空轉時の回轉數減少に據る機關磨耗の減少

平島氏は、獲得した特許權をそのまままそつくり會社へ獻呈の手續をとつたが、名利に淡々と、唯研究の成功に唯一最大の愉しみを求めて、ひたむきな努力を傾ける同氏の美擧は、典型的な技術家氣質ともいふべきもので、周圍の者を深く感動せしめてゐる。昭和十年に學校を卒業した青年技術家平島氏は、將來幾多の發明改良を產み出すであらうと期待せられてゐるが、同氏は來る日も來る日も專門の道に沒我の精進を續けてゐるのである。

警備犬の活躍を訪ねて

――東潞線視察記――

土屋久信

穏やかな冬の夜半、筆者は東潞線一帶に渉つて活躍しつゝある警備犬を視察すべく北京を發つた。鐵路を進み行く轍の音を聞き、車中の旅客の幸せさうな談笑を聞くにつけても、夜を徹して寒天の下に鐵路を守る警務從事員や警備犬の姿を想ひ合せ感謝した。

車中は、時折り短劍を腰に吊つた若い警乘員が巡廻して行く。寔に賴もしく雄々しき姿である。

明方の星空を仰ぎつつ太原站で乘り換へた潞安行きの山嶽列車は谷を越え山麓を這つて徐ろに走つた。線路に迫る斷崖は崩れさうで寔に危險である。

窓外に見る山の頂に寒風に晒されて警務從事員が警備犬と共に監視してゐる雄々しい姿も見られる。寔に難有くも尊い姿である。

來遠と武南間の河川の合流地點に至ると、突然列車は停車した。慌しく乘務員は線路を往來して、間もなく戸板に擔がれた負傷者も運ばれて來た。その蒲團は鮮血に凍りついてゐる。

今朝、明方前に匪襲を受け、衆を賴む匪團と交戰し、之を擊退した尊い犧牲なのである。遙かに見ゆるその激戰のあつたといふ小麥畑は陽に輝き、數時間前の凄慘な有樣を忘れたるが如くに軟かく靜かな空氣に包まれてゐた。

×

南溝站で太原行きの上り列車と行き違ふ。溢れるやうに旅客を滿載してゐる。凛々しい分所長は、不動の姿勢で科長に生々しい情報を明瞭に報告してゐる。

標高千七百米の分水嶺から列車は行きつ戻りつ電光型に下つて行く。途中事故も無く沁縣站に着いて、警務段の屯所で、科長を中心とする討伐の作戰計畫を傍聽した。

古俣職員の案內で、私は一足先きに城內の宿舍にある警備犬班へ赴き、遙かなる地に警備の重任を帶びて派遣された育成所々員一同の明るい元氣な顏に接することが出來た。

無精鬚が伸び放題に伸び、その鬚に埃がとまつて、黝んだ陽燒けした顏はその苦鬪の跡を無言に物語つてゐる。犬も元氣である。宿舍は水と薪炭の不足に聊か不便をしてゐるらしいが、犬舍は輸送箱を南向きの庭に竝べ、アンペラや莚等で蔽ひ親切に配してある。

蠟燭の灯の下に所長と夜の一時を語る。警備犬も斯くの如き情況の惡い場所に來ると軍用犬である等と、切實な言を吐露せられる。續いて、斯かる山嶽地帶を含む所の作業では、謂ゆる立體訓練でなくてはならぬことなど、作戰の祕法にまで言及される所長こそ、我が警備犬育成所に無くてはならぬ人物であると思つた。育成所々員また意氣軒昂、矍鑠たる武人は匪團の來襲を待つの氣概を示しつつ、肌寒き此處東潞線の鐵路治安を守られてゐる。

×

翌日、私は討伐隊の一員に加へてもらふことゝして身仕度をした。

九時、沁縣站前の廣場に科長以下數十名の討伐隊は凛々しき勢揃ひをし、若い戰士等は烈々たる氣概を示しつつ雄圖に就いた。

警備科長は、老いの身を支ふるべく金剛杖を握つて一行を指揮される。凍てつきし鐵路を横切り、丘陵を越え、急坂を這ひ敵影の發見に努めつつ、人も犬も健氣に進軍し、遙かな石碑をさへ敵匪ではないかと、隊員の神經は過敏に漲りつつ、更に山頂を極め山の皺を突つ走り又、山麓に下つた。

斯くて行軍は黃土の沃野を行けば、白樺に似た並木が氷つた小川に添つて美しく輝き樹々の枝に棚引く朝靄が靜かに流れてゐる。山羊の群が牧羊犬に守られつつ枯草の地帶を淀めるが如く靜々と移行してゐる。

正午近く西河府といふ部落に着く。この村は南向きの山腹に風を避け、陽を浴びて村人は安逸に蟄居し、鷄と豚と牛等が放し飼ひにされてゐる。眼隱しされたロバが玉蜀黍の實を潰してゐる。凍つたやうに冷たい握り飯を、私達は焚火を圍んで貪り食ひ、部落民の好意の野辛に荒鹽をつけて舌鼓を打つた。

匪團の匂ひもしないのを嘆きつつ若人達は更に行軍を續けた。部落を過ぎ行くと、日の丸の旗を翳して村人が挨拶に出て來て煙草の贈り物や生きた鷄もくれた。聖戰の意義と村人將來への幸福を縷々と語られる科長の姿は神々しくさへ見え、老いたる村人は目をしばたゝきながら領いてゐる。

夕陽の落ちる前に討伐隊は、東潞線に沿つた兵站道路に出で、再び沁縣站廣場に於て科長より此の日の討匪行を犒はれ各〻宿舍に引き上げた。

斯くして殆んど寧日無きまでに敵匪との抗戰と警戒に努め熾烈な戰鬪慾に燃えて沁縣を中心に活躍してゐる人々に對し滿腔の敬意と謝意を捧げなければならない。

×

潞安に於ては誠に豪放磊落な分所長に面會し、農民の貧困と匪團の飽くなき無謀なる暴擧を聞き憤慨あるばかりであつた。更に警備犬の狀況など聞くうちにも、情報連絡の電話は間斷なくかかつて來る。警備員は食事と雖も箸を捨てては立つて行くと云ふ忙がしさである。この分所も警備より一歩進んだ戰鬪狀態に入つてゐると云つてもよく、分所長始め所員諸君の緊張振りもまた涙ぐましいものがある。何れの人も生死一如の觀念を抱き、日々社務に服してゐる姿は貴いものがある。

×

次の日、潞安を出發した。列車は廣野をひたむきに走り、線路に沿つた電線の修理をしてゐる甲斐甲斐しい人達の姿も見え、中國犬が線路に沿つた兵站路や站舍や草原に見受けられた。私は野放しの中國犬の中に相當優秀な作業に適する型と質の犬が居るのを認めた。それ等の犬の被毛は老毛に近く、毛色は茶或は黑の一色とか、白と黑の斑のものが多かつた。肩胛骨と上膊骨が頑堅で、發達度が頗る良いために、頸礎から頭部の線が頼もしき程に逞しく健康的である。ただ四肢の角度は輸立してゐて重心は稍〻高い憾みがあると思つた。

一部の無頓着なシェパード犬の蕃殖家は、血統や體型や性質の調査をする知識も親切も無く、産れた虛弱仔を淘汰する理性も無く、人工的に蕃殖管理されて辛うじて生命を繋ぐ虛弱極まるシェパード犬を作出してゐる向きがあり、誠に作業犬程シェパード犬の名譽のために惜しむものであるが、中國犬は野放しの關係上、出産後自然淘汰の强い鞭を受けて生き殘る仔犬は、寒氣や暑氣やまた飢餓にも耐へ得る而も鬪爭力の强いもののみである。

若し今、軍用犬乃至警備犬の資源を速やかに欲するとするならば、直ちにこれ等氣候風土に順應した中國犬をこれに充つることも良き策ではないかと考へた。

×

沁縣站頭で、育成所の一隊は今朝も暗い中から漳源の山嶽地帶へ討伐に征つたことを聞き、人も犬も素敵に善鬪してゐる姿が眼に浮んだ。

南溝村からは樹木の全くない山稜が迫つて來る。東觀に至ると視界は再び展け、灯の點らぬ暗い列車は鈍い月光を浴びて太原へ赴く。敵匪に刺された若い警務員が又しても戸板に擔がれて太原站に下された。私は東潞線一帶に亙る被害情況を目のあたりに見て、義憤の念に驅られてしまつた。

恰も網の目を潛り拔けるが如き幸運な旅程を辿つて、狂ひなき豫定で太原の城門を眺め得た事を、私は喜んでよいのか否か、その判斷に苦しんだのである。それは、多くの犧牲者を傍觀して來た私であつたからである。

×

翌早朝、洋車に搖られつつ北京の鮮麗な街を走り行く私は、過ぎし幾日かの旅を顧みた。そこには烈々たる鬪魂に燃えた鐵路を守る人と犬、そして斃れて行く人の面影が私の胸を搏つのである。莞爾と死地に赴く人々の聖き靈魂に頭の下る思ひがする。

歸着後、會社の机上には〇月〇〇日附の治安狀況日報が私の目を惹いた。それは警備犬の功績に關するものであつた。

〇〇日十二時三十分、沁縣新店開八九・五粁の地點に於て、巡察中の警備犬班は埋沒地雷を發見、進行し來る五三六列車を停車せしめ、沁縣警務段に連絡中のところ乘車中の潞安工兵隊將校が下車して該地雷を除去せり

と云ふのである。私は寒冷と塵埃と疲勞に耐へつつ日も夜も苦鬪の頁を綴りゆく物言はぬ戰士に遂に凱歌が揚つたことを知つて歡びを越えた感情が犇々と胸に迫るものがあつた。

旅程中、親んで來た數多くの警備犬の顏貌が次々と私の瞳に映つて來る。どの犬が此の功績を贏ち得たのであらうか。否、これこそ全體の力であり、その矜こそ警備犬取扱者の智能と警備犬の嗅覺の荷ふ可き榮譽であるのだ。この限りなき手柄に醉ふ事なく、明日も又次の日も、茨の路を突き進み、民族永遠の平和を齎すところの警備犬の上に榮あれと祈りつつ筆を擱く。

筆者・華北交通警務員

正誤

本誌十二月號グラフ頁の膠濟鐵道略圖中、湖田・普集間（八陡線を含む）が誤つて重複しました。訂正致します。

港灣荷役力增强

連雲港の成果

槇　泰治

戰爭の進展に伴ひ戰力充實の爲、大東亞諸地域から重要國防資源を大量に運んで來なければならない日本に於ては特に海上輸送の强化が基本的問題である。旣に船腹の擴充が最も緊要な問題として取上げられてゐることは周知のことであつて、之が方策として第一に、造船に依る船腹の獲得、第二に港灣に於ける荷役力を增强し、船舶の碇泊時間を短縮して運航能率を增進せしめる等が考究されてゐるのである。

從來の統計によると我國の船舶の一箇年平均運航日數は約三百三十日、その中約百八十日は港での碇泊に費してゐると謂はれるのであるが、若しこの碇泊時間を短縮してその運航能率を一割だけ高め得たとすれば、正に數十萬噸の船腹を增强し得ることになるのである。この點に着目した政府は舊臘より本年三月末迄を「戰時港灣荷役力增强週間」とし、差當り本邦主要十六港に於て港灣荷役力の三割乃至五割增强を目指すこととして發足したのであるが、兵站基地として石炭、鐵、棉花、鹽等の決戰資源を豐富に生產埋藏してゐる華北に於てもまたこれに呼應して荷役力增强週間を設定したのである。

さて本期間に入るや華北交通に於ては所管の塘沽地區及連雲の各碼頭を中心とし、また秦皇島は開灤礦務局、靑島は靑島埠頭會社に於てそれぞれ實施し、旣に三箇月を經過、あと僅か一箇月を殘すのみとなつたのである。現在迄のこの狀況を見るに各港區共に驚くべき成果を擧げてゐるのである。特に連雲港は平常時の三分の一以下に碇泊時間を短縮せしめ、荷役力に於ては目標の三割を遙かに突破して五割の增强を示し、日本內地はもとより大東亞地域にその比を見ない好成績を收めてゐるのである。從つてこの成果は軍當局をはじめ關係業者の注目するところとなり、先般一月には船舶運營會より感謝激勵の電報を受けるなど荷役力增强に一層の拍車をかけてゐるのである。

事變前、未だ小規模碼頭の域を脫し得なかつたこの連雲港が僅か數年の間にこの好成績を擧げ得るに至つたといふことは洵に示唆に富むものがあるのでその特色を二、三摘記して見よう。

先づ第一に連雲港は隴海線の終端港として鐵道に接續し背後地との關聯が極めて密接であること、第二に港灣經營者が水陸交通の一貫經營者たる華北交通であること、卽ち華北交通は他面同時に鐵道を兼營してゐる爲、港灣作業が常に鐵道との聯關によつて有機的に運用され、港頭の輸出及配船計畫はもとより貨物の發送及貯藏、更に船舶の着離埠作業や貨車の廻入作業竝勞工の配置、荷役道具の運用等に至るまですべてが綜合計畫的に指令し實行し得るのである。第三には、從つて勞働力の源泉たる荷役華工を一手に確保し隨時適所に運用し得ること、等が最も大きな特色條件である。而して今次の對策としては㈠勞働力の確保、㈡終夜作業の實施、㈢華工の二部制の運用竝作業時間の延長、㈣幹部陣頭主義の徹底等を重點實施事項としたのである。

連雲港のこの優秀なる實績は槪ね以上の如き港自體の性格と經營の特徵に基づくものであるが、この經營性格は滿鐵の大連港經營とほゞ同樣の形態に置かれてゐるのである。この事實は輸送能力の劃期的增强を要請せられる今日、而も內地に於ては荷役作業の統一、港灣行政の統一、陸上小運送業との統合調整等しきりに叫ばれながら猶行き惱みつゝある各港灣の現狀に對して明確なる指標を投ずるものであらう。

第一書房の大陸關係圖書

文學博士 後藤末雄著　藝術の支那科學の支那　B6列三二〇頁 定價二圓

後藤末雄著　支那文化と支那學の起源　A5列六六八頁 定價三圓八十錢

後藤末雄著　支那四千年史　近刊

竹內節夫著 隨筆　鶴・點心・紀行　B6列二三九頁 定價一圓五十錢

高野正男著　北支の自然科學　B6列三二〇頁 定價一圓八十錢

文學博士 大島正健著　漢音吳音の研究　A5列二八〇頁 定價二圓五十錢

鹽田力藏譯解 許之衡著 說從新註　支那陶磁　B6列五三一頁 定價二圓八十錢

小林太市郎譯 ダントンコール　支那陶磁見聞錄　B6列三七四頁 定價三圓五十錢

石山福治著　最新支那語大辭典　B6列一七五〇頁 定價十圓

＊何れも殘部少數です
＊外地は定價の一割增に願ひます
＊第一書房の振替番號は東京六四二二三番です

山東、山西に於ける佛教史蹟（三）

道端良秀

山西省の佛蹟

山西省の佛蹟として、吾々は余りにも多くのものを見る。實際に山西省は佛都と云つてよい程、山西省に入るとそんな感じを受ける。

山東省と違つて堂々たる寺廟が各村落に巍然として建つて居り、佛塔が中空高く聳えて居る。その上、山東程荒廢してゐない。

さて今、山西に於ける佛蹟として第一に擧ぐべきは、

五台山

であることに異論はない。事變以後に於ても六月大會は一ケ月間、盛大に行はれて、その間遠く蒙古、滿洲、或は新疆方面からも、又わざ〳〵日本からも參拜に來る僧俗が非常に多い。

五台山は今も方しく佛教の中心地とされ、文殊の淨土と信仰されて居るのである。今こゝに五台山の沿革を述べるには、余りにも有名であり、又これを詳述する紙數もない。が然し、五台山の概念だけは述べて置かねばならないであらう。

五台山に佛教が入つたのは、後漢の時と云つてゐるが、それは問題外として、五台山佛教として名を出して來たのは、矢張り南北朝からのことであり全世界の佛教の靈場とされ、文殊の淨土としても憧れを持つやうになつて來たのは、唐代からである。特に唐の中期以後になつて密教の不空三藏が五台山佛教に力を入れ、弟子として金閣寺其他を建立せしめてからの事である。

一方天下に文殊院を建てしめて、これを普及せしめたことも、文殊の淨土として、五台山を愈〻盛んならしめたものである。密教の不空一派と、五台山佛教との關係は、非常に深いものがある。

尙、天台と五台山、華嚴と五台山、念佛と五台山等の關係も亦それ〳〵離るゝことの出來ぬ關聯を持つてゐる。細述を省くが、これらの事が佛教の靈場として愈〻盛んならしむる原因となつたものである。が、吾々はそんなことよりも、こゝに留學してあへなくもこの山中に命を落した彼の靈仙三藏の靈を慰めねばならない。

彼、靈仙は奈良朝から平安朝にかけて入唐留學した留學僧で、長く長安に在つて學を修め、その名聲は全土に響いたものらしく、不空の譯場に列して譯經事業をも掌つてゐる。我が留學生にして、古來經典飜譯に從事したと言ふのは恐らく彼靈仙一人で、然も最も重大な譯語の職にあつたことを思へば彼の學識が如何なる程度のものであつたか容易にこれを知ることが出來る。

五台山に入つて二ケ年間、華嚴寺郎ち今の顯通寺を中心に、或は金閣寺、或は靈境寺に在つて、研鑽に力めたが遂に靈境寺の浴室院で毒殺されたと傳へられて居る。如何なる原因であつたか、餘りにも俊英なりしその結果であつたか、現在に於て正確な解答を出すことは出來ないが、兎に角、今の靈境寺に於て寂した事だけは間違ひない。

今こゝに彼の遺蹟を尋ねても、何らそれらしきものを見出すことは出來ない。殘念であるが致し方がない。近年日本人有志によつて、彼靈仙の遺蹟を顯彰せんとして碑文を撰し、これを忻縣城外に建立したのは、場所が變ではあるが、事變下の時とて致し方がなかつたのであらう。兎に角これで千有餘年の間、餘り同胞にも知られなかつた靈仙が、かうして事變によつて世に出されたことは、日支文化交流の上に於ても、甚だ喜ばしいことである。

靈仙以後、日本からもわざ〳〵この五台の聖地に參らんと志した人も多く又その目的を達した人も相當あつた。その中でも叡山の慈覺大師圓仁は最も有名で、彼の旅行日記は當時の五台山を詳細に報告してゐる。

この圓仁の日記の內で珍らしいことは、五台山參拜者のために、特に普通院なる無料宿泊所が設けられて居たことである。五台山參拜路には東西南北の四路あつて、長安、太原からの道は正道で、一番賑はつたことであらうし又河北省から入る龍泉關の道も相當利用されたやうで、圓仁はこの河北省から入つて、太原への道に出て來たもので、入路、出路共に多く、この普通院に宿泊してゐる。而もそれが遠く今の臨汾の邊り迄、この無料宿泊所が設けられてゐたことを述べて居るが、或はもつと遠く迄、蒲洲邊からも設けられて居たものではあるまいか。

唐宋の五台山全盛時代に、この普通院が、どんなに利用され、どんなに賑やかであつたか、と想像され得るもので、圓仁の時でも、一時に百人以上も一所に泊つたことを述べて居るから、普通院の狀況も略〻想像することが出來よう。

今日、この普通院が、何處かに、何等かの形に於て、殘されて居ると思はれる。

太原市の南北郊外に、南十方院、北十方院とある寺は、これは正しく普通院であらうと思はれる。又、忻縣城外靈仙三藏碑の建てられた所にある十方院も亦、その土地の古老によつて、恐らく昔の普通院の址と思はれる。

以上の如く五台山佛教は、唐宋時代以後、非常に盛んであつたが、近く清朝になつてから、喇嘛教の本山とも言ふやうになつた。蒙古、滿洲に於ける喇嘛教の中心的靈場となつた。卽ち文殊の淨土であるがためである。從つて現在は喇嘛の黄廟と、從來の青廟とが一緒になつて、五台山佛教を形成してゐる狀態である。

堂々たる大伽藍と、青々とした松柏の林、その間を流れる清流とは正しく別天地を思はせ、一滴の水にも不自由をし、泥水ばかりを見てゐる地方や、其他の人々には、この五台山は將しく佛の國であり、聖地であると感ずるのは、何らの不思議でもない。當然のことと思はれる。次に

玄中寺

である。これは五台山程一般には知られて居ないが、日本との關係に於て、支那佛教史上に於けるその地位に於ては、決して五台山の佛教に劣るものではなく、後世に及ぼした思想信仰、文化の上に於ては、遙かに五台山を凌ぐものがあるのである。

玄中寺、卽ち石壁山玄中寺こそは、支那佛教、日本佛教の根源地なりと云つてよい。

一體、支那佛教及び日本佛教の現狀は、殆んど淨土教關係であり、假令淨土教關係でなくとも悉くこれ念佛といつてよい。この念佛が、石壁山玄中寺から起つて來たと云へば、この玄中寺が、支那日本佛教の念佛の根源地なりと云つても、これ當然のことで、何ら誇張ではない。

この念佛の根源地たる石壁山玄中寺は、太原市からバスで二時間餘、交城縣から西南二十支里の山中、石壁山に建てられた寺で、現在尙立派に殘つてゐて、唐宋以來の古碑や、佛像が當時の隆盛さを物語つて居る。これらの古碑並びに文獻によつてみると、この玄中寺は北魏時代に、支那淨土教の北方の始祖とも云ふべき、曇鸞によつて創立されて居る。

一體、支那の淨土教は、東晉時代に廬山の慧遠によつて創められ、彼の有名な念佛結社たる白蓮社を設けたことに始まる。從つて支那淨土教の始祖は慧遠であるが、彼は南方廬山を中心とした南方佛教で、餘り北方には影響はなかつたやうである。從つて北方に於ける淨土教は、玄中寺の曇鸞を以て始めとせねばならぬ。

然し、不思議なことには、南方廬山の慧遠も、實は北方山西省の人で、今の崞縣に、

樓煩寺

と云ふ寺があるのがそれである。娘々などを祀つたりして居るが、慧遠像を安置してあつて、古碑、古經幢なども現存して居て、中々立派な寺である。慧遠演教の寺ともされて居る。

さて、曇鸞もまた慧遠と同じく雁門の人である。判然とこれは分らないが代縣邊りだらうと思はれる。この邊りに生れた彼が、五台山に登つたり、或は遠く南方梁の國、今の南京方面まで修學に行つたりして、遂に淨土念佛に歸心し、この玄中寺を建立し、こゝを中心として念佛の法門を宣布したのである。

曇鸞の後にこの玄中寺に一生住居し全身を念佛弘通に打込んだ高僧が、卽ち隋から唐にかけての道綽である。彼の念佛をすゝめる方法には、特別な小豆念佛と稱するものがある。卽ち念佛の數を小豆で、一升二升、五升一斗と數へる方法で、これは一般民衆に取つて、頗る興味ある、且つ勵みとなる方法であつたがために、玄中寺を中心とした四五縣の住民、七歲以上の老若男女、念佛を稱へない者は一人もなかつたと云はれる。

また、道綽は單なる一地方の高僧たるものではなく、天下の名僧であつたもので、その名聲は早くより朝廷にまで聞え、太宗皇帝はわざ〳〵駕をこの玄中寺にまで進めて、道綽を禮敬し、皇后不豫のために、恢復の祈願を行つて居ることを以つても知ることが出來る。

道綽の直接の弟子に、善導が居る。山東の生れて、遠く山西のこの玄中寺に道綽を尋ねて、念佛に歸したのであるが、彼は支那淨土教の大成者なのである。師道綽の寂後、都長安に出てこゝを中心として念佛を弘め、長安城中念佛の聲に滿ちたと云はれる人であ

る。この善導の民衆教化として特筆すべきことは、淨土曼陀羅や、地獄圖繪を畫いた事である。相當多くの圖幅を畫いたが、彼のこの圖繪が、眼から來る直感的な教化として、如何に大なる成果をあげたかは恐らく想像以上であらう。

以上の三人が支那に於ける淨土教の大成者なのである。然も玄中寺を中心として、これを弘布宣傳したもので、その流れが日本に傳はり、平安朝末期に至り、法然によつて淨土宗の獨立と云ふ實を結んだのである。この法然の弟子親鸞によつて、更に徹底的な念佛が提唱されて、こゝに完全に玄中寺の念佛が、日本全般に普及さるゝこととなつたのである。

日本佛教とこの玄中寺との關係は上述の如く頗る密接不離なものである。日本淨土教に於ては、曇鸞、道綽、善導を支那に於ける念佛の祖師とし、特に親鸞教に於ては、七高僧の內にこの三祖を入れ、朝夕禮拜燒香して居るのである。親鸞の鸞の字は、曇鸞の一字を取られたもので、親鸞の彼に私淑する態度は、これによつても知れる如く彼親鸞の念佛は、全く玄中寺曇鸞の念佛の直意を開顯し、これを日本的なものになしたのである。親鸞の正信偈及び和讃は、今日親鸞教徒にして知らないものは一人もないと云つてよい程、普及されてゐるが、そこにこの曇鸞、道綽、善導の事蹟を述べ、德を讃へて居るので、山西省に於ける玄中寺の名及び三祖の事は何人と雖も關心を持つてゐない者はない。それ程この玄中寺は日本佛教徒、特に念佛教徒に取つて因緣深き、憧れの寺なのである。次に澤州の

青蓮寺

がある。澤州から東三十五支里、硤石山と云ふ處にある古刹で、北齊の建立、曇始、慧遠の寺として有名なのである。

この慧遠は上述の廬山の慧遠とは別人で、北齊より隋にかけて、中國佛教を代表すべき高僧で、彼の著述は、現在尙日本佛教徒迄にもよく讀まれ、參考とされて居るもので、日本佛教との交渉もまた甚だ深い。特に淨土教に取つて忘れてはならぬ彼の功績は、淨土經典たる「大無量壽經」や「現無量壽經」の註釋を出したことで、現存してゐるものとして、彼のものが最初であり、且つ後世の淨土教に取つても、大いなる影響を與へて居るものである。

このやうに考へて來ると、山西省は全く淨土教の根元であるのである。東晉の慧遠は雁門樓煩に生れるし、曇鸞已下の三祖は玄中寺を中心として活動して居るし、又隋の慧遠は、この澤州に生れて青蓮寺に居住して說法して居るからである。また唐の中期、善導の後に出た法照は、五台山竹林寺を建立して、五會流の音樂的念佛を創唱し、また太原に滯留して著述もし、念佛をも弘めて居る。この五會流の念佛は、圓仁によつて叡山に傳へられ、常行念佛となつて傳はつて居る。兎に角、山西省と念佛は餘りにも密接である。

かく青蓮寺は、日本佛教に取つて關聯深いが、支那民衆に取つてもまた信仰の中心をなして居る。澤州近縣の民衆は、五台山に次ぐ靈地として、一生に一度は必ず參拜せねばならぬところとされて居る。年に二回の廟會には、陸續として近縣は申すに及ばず、遠く河南省からも老若男女群參をなすと云はれてゐる。凡そ一キロ餘もある山路の參道は、とても立派な石を敷きつめて、それがピカ〳〵光つてゐるところを見ると、この參道が如何に多くの人人によつて往復されて居るかを物語るものであり、この青蓮寺が如何にこの地方民衆の信仰の中心をなしてゐるかを示して居るものである。

尙、青蓮寺は堂々たる大伽藍で、何ら破損することもなく、唐代の經幢や石碑が保存され、また唐代の石窟佛も見られ、或は明版の大藏經も備へ付けられて居る。明代の喇嘛塔も立派であり、向ひに聳ゆる班山の頂上、祖師堂眞武廟、その他の廟宇は何れも青蓮寺の一部をなして居るものである。

尙こゝの硤石山腹の岩窟水洞中に、珍らしくも石板に書いた石經が二十有餘板保存されて居る。水中のために充分これを調査するを得ないし、また何らの文獻もないから、その時代も不明であるが、兎に角石經としてなか〳〵立派なもので、恐らく京漢線房山縣の雲居寺の石經、山西省晉泉縣風峪の唐代華嚴經の石經に次ぐものでないかと思はれる。

次は舊太原即ち晉泉縣を中心とした佛蹟である。この地は南北朝から唐代にかけて、長安、洛陽と共に文化の中心地であつたために佛蹟が頗る多い。西山の

開化寺、**童子寺**、**懸甕寺**、**天龍寺**、**崇福寺**、**大佛寺**、**憲明寺**など、限りがない。この中でも天龍寺は特に有名でそこに彫られたる二十有餘窟の石室及び石佛は、大同、龍門に次いで第三位のものとして世界的である。

晉祠鎭からおよそ六里餘、道を迂廻し、漸くにしてこれに達したが、期待

した

天龍山の石佛は、あはれや只無慘なりと言ふ外、何と云ふ言葉もない。嘗て「天龍山石佛寫眞集」が出され、近年にもまた「支那文化史蹟」の中にこの寫眞が纂められて昔ながらの北齊、隋、唐の尊い御姿を拜することが出來るが、今この石窟の前に立つて、餘りにも變り果てたる姿にたゞ涙なきを得ない。情けないことである。如何なる無情な人によつて、かくも無慘に世界的なものが破却されたものか東洋文化のために慨きても尚餘りあることである。

然しそれでも尚二三の窟は、辛うじてその厄から遁れて、首や手はないが美事な北齊の藝術や、隋唐の造像美術を代表してゐるのは、せめてもの慰めである。天龍寺も大雄寶殿の屋根は破れて月が見えるし、相當荒れ果てゝ居る。

次に、山西に於ける石窟佛、摩崖石佛の遺蹟を尋ねて見る。今迄知られてゐるものとしては、上述の天龍山石窟と、

童子寺の大佛位のものである。又石太線亂柳村及び平定縣の石門口の摩崖石佛も調査されたやうである。然るに、今回の山西各省の踏査に於て、更に多くの石佛遺蹟を、これに加へることが出來るやうになつた。

詳細なことは今略するが、大體次の如きものがある。

1、石太線、盂縣與道村千佛山に於ける北魏の摩崖千體佛、並びに六朝の石塔佛。

2、石太線、壽陽縣中曲村石巖山に於ける六朝の石窟佛、摩崖佛の多數。これは實に見事である。恐らく北魏時代及びそれ以後のものもあると思はれる。

3、東潞線、澤州硤石青蓮寺の唐代の石龕佛二體。

4、東潞線、澤州浩村の北魏石龕佛一體、唐石龕佛二體、宋石龕佛一體。

5、高平縣龍王山の北齊の石窟佛、
(これは潞安から高平に行く道路のすぐ側にある二大岩石に彫られた二石窟で、一つは千體佛が天井迄彫られて居る珍らしいものである)

6、高平縣歡水附近沿線の山腹に作られたる數十の石佛群。

7、南同蒲線、祁縣子洪鎭に於ける北齊時代の數箇の石窟と摩崖佛
(これは東潞線子洪鎭驛に下車して、河を渡つた所である。窟内の二米弱の石佛は實に立派である)

8、南同蒲線、祁縣城内に六朝の石佛が或る地點より發掘されて、首も手も足もない胴體ばかりの六朝佛三十體程が保存せられてゐる。

9、南同蒲線、霍縣郭庄の唐代の大石佛。
(これは鐵道線路すぐ側にある大岩石を彫り出したもので、高さ五米以上の大佛を中心に三十有餘の佛龕がこれを取り卷いて居る。この中に十一面觀音が二體も彫られてあることは、石佛として頗る珍らしいものである)

10、南同蒲線、稷山縣白家庄の北魏の三石佛。
(これは摩崖佛ではなく石佛寺の内に安置されて居る二米足らずの三體の石佛である)

11、南同蒲線、虞鄕縣石佛寺の唐代の石佛。
(これも摩崖佛ではなく、一米そこ〳〵の坐佛で、畠中に半分埋もれて居たのを昨夏小野博士が掘り出したものである)

12、太原汾陽バス線、清源縣居溝村の宋代の石窟佛。一窟は未完成三窟は破損して居るが、一窟は實に立派な堂々たるもので、窟に二米内外の本尊、脇侍と共に窟一面に小佛が彫り込まれてゐる。

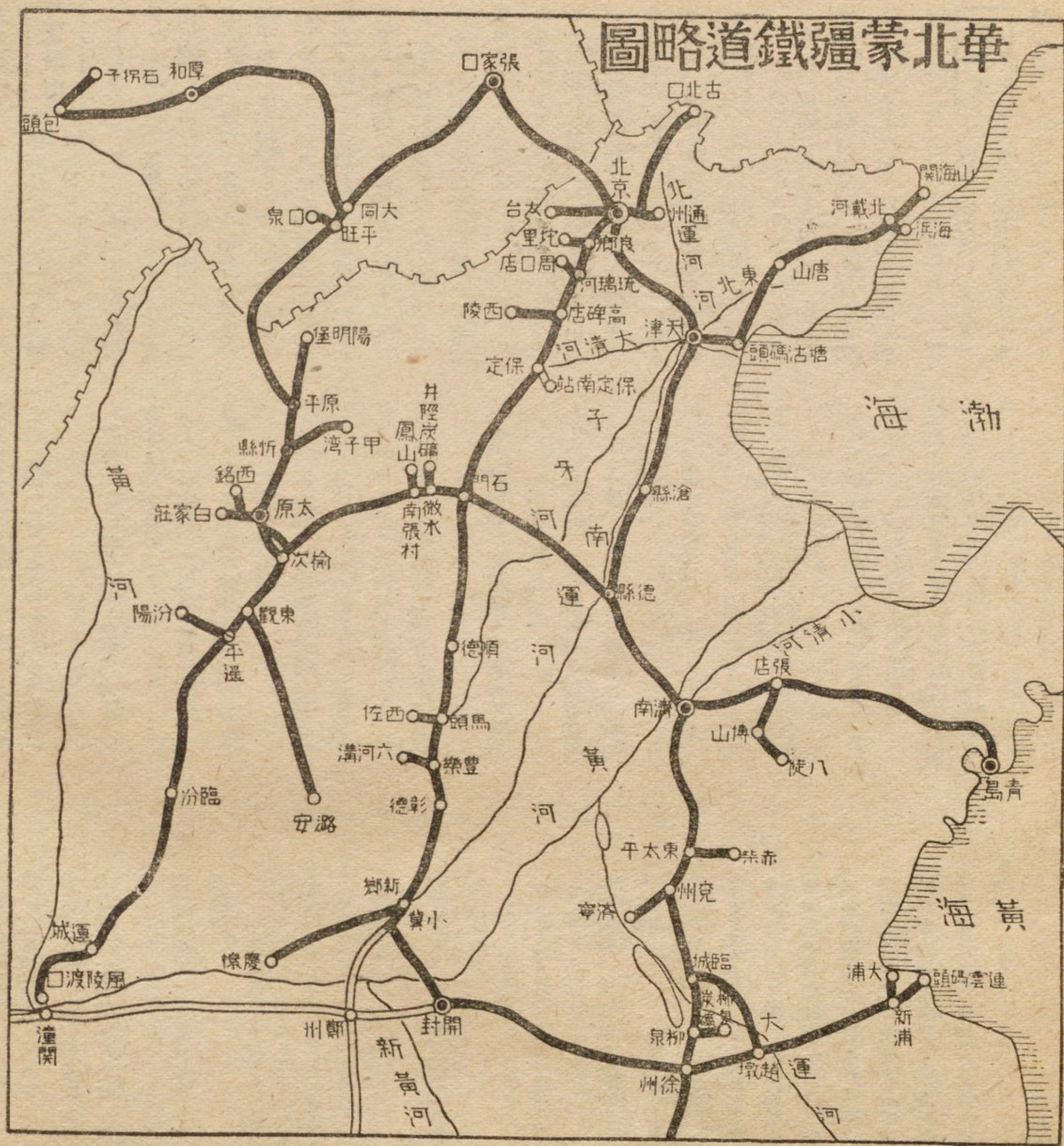
13、太原汾陽バス線、文水縣崖底村の唐代の一石佛並びに摩崖佛。

摩崖佛は磨滅著しく、現在見得るものは僅かである。

以上である。此の他にもまた澤山あるやうであるが、事變下の今日これを調査する事が出來ない。

尚、山西省の佛蹟として此の他述べねばならぬ多くのものが殘つてゐる。佛塔であるとか、唐以後の鐘であるとか、趙城縣廣勝寺の金版大藏經を初めとして、太原市崇善寺にある宋、元、明の大藏經、臨汾淨土寺の金泥の華嚴經などの經典類とか、或は蒲州萬國寺に在る珍らしい阿彌陀經の經幢の斷片とか、其他色々述べれば切りがない。山西省は全く佛都であり、史蹟の寶庫である。

結　語

初めの豫定では華北全般に亙る佛蹟を敍述するつもりであつたが、紙數の關係上、山東山西だけに止めることとする。然かもそれも重要な二三に止まつたのみであるがそれ等は主として日本との關聯に於て日支文化交渉の方面に於て多くこれを選ぶこととした。これは佛教史蹟が單なる遺蹟ではなく今後の大東亞の建設に重要なる地位を占めて居ることを知つて頂き度いがためであつた。(完)

華北蒙疆鐵道

京山線（北京—山海關）
京古線（東便門—古北口）
京漢線（西便門—小冀）
津浦線（天津北站—蚌埠）
京包線（豐臺—包頭）
膠濟線（青島—濟南）
石德線（石門—德縣）
石太線（石門—太原）
同蒲線（大同—蒲州）
懷慶線（新鄉—懷慶）
隴海線（連雲碼頭—開封）

（お斷り「東城記」休載）

昭和十八年三月十五日印刷納本
昭和十八年四月一日發行

四月號
（毎月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番地一 長谷川巳之吉
印刷者 （東東二〇四）小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 古川一郎
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替 東京六四二二三番
電話九段（33）一四一五番 三三四四番
會員登錄番號 一一六五〇八番

一册定價㊣三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分 金三圓六十錢

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社

禁無斷轉載・檢閱濟

☆治療の要諦

化膿菌に對して劃期的治効を謳はれてゐるズルホンアミド劑の撰定に當つては其化學的純度高きものを採る事が治療の要諦であります。

☆ポレオン「日染」

ポレオン「日染」は二基ズルホンアミド劑の純正品にして、內服に依り左記諸疾患に對し的確に奏効するのが特徴であります。

適應症

化膿性 婦人科疾患
扁桃腺炎・丹毒
中耳炎・齒槽膿瘍
急・慢性 淋疾
其他あらゆる化膿性疾患

二基ズルホンアミド純正劑

ポレオン錠「日染」

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

包裝 二〇錠 一〇〇錠

P—178

NISSEN

砒素驅黴劑

"日染"の新發賣！

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。

時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

一二三四五六號號號號號號

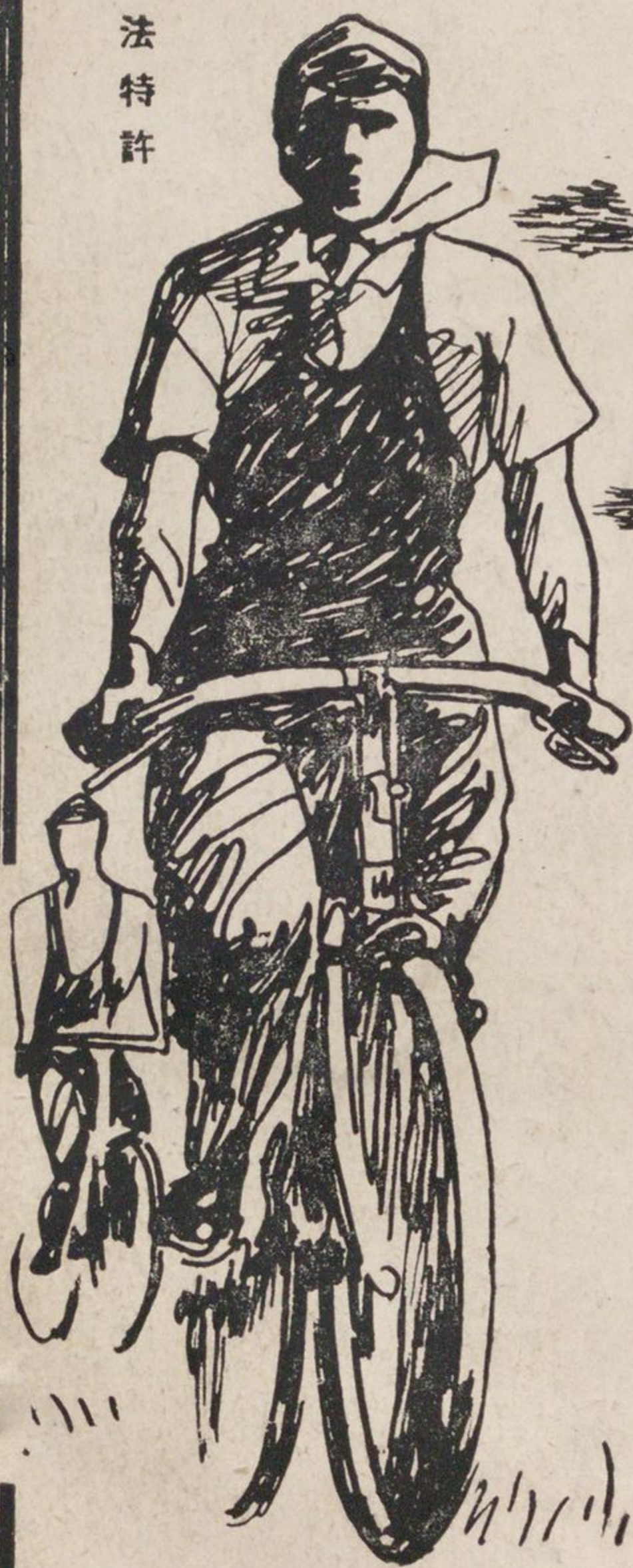
各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

武田發賣品

製法特許

我々が攝取する含水炭素が充分に酸化せられずして、乳酸又は焦性葡萄酸の蓄積となり……

疲勞を來し、筋肉痛、肩凝り、腰痛、神經痛等の一因となり心身を弱化せしむ

即ち高單位ビタミンB_1はこの蓄積物質を分解・解毒し組織の機能を正常ならしむ

其の他……

胃腸疾患、肺結核・肋膜炎等の消耗性疾患時の榮養補給、脚氣等に

V・B_1含有量 一錠中〇・五ミリグラム

★一〇〇錠　三〇〇錠

疲勞恢復

強力メタボリン錠

製造發賣元　株式會社　武田長兵衞商店　大阪市道修町